

2025年3月期
決算説明会資料

2025年5月2日
株式会社エフピコ

証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意



掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

- **2025年3月期 決算概要** ... **4**
- **企業価値拡大に向けて** ... **15**
- **添付資料** ... **50**

2025年3月期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要（2025年3月期 実績）

過去最高

✓ 売上高:15期連続増収
親会社株主に帰属する当期純利益:3期連続増益

(百万円)	通期 実績					通期 期初計画	
	2024年3月期	2025年3月期				2025年3月期	
	実績	実績	増減	前年比	数量	計画	計画比
トレー	41,943	44,497	+2,553	106.1%	100.2%	44,455	100.1%
弁当・惣菜	125,915	132,817	+6,901	105.5%	101.7%	131,524	101.0%
小計	167,859	177,314	+9,455	105.6%	101.2%	175,979	100.8%
その他製品	3,794	3,455	▲338	91.1%		3,831	90.2%
製品売上高	171,653	180,770	+9,116	105.3%		179,810	100.5%
包装資材	48,035	52,802	+4,767	109.9%		53,750	98.2%
その他商品	2,411	2,055	▲355	85.2%		2,440	84.2%
商品売上高	50,446	54,858	+4,411	108.7%		56,190	97.6%
売上高	222,100	235,628	+13,528	106.1%		236,000	99.8%
営業利益	16,429	18,471	+2,042	112.4%		17,800	103.8%
経常利益	16,780	18,451	+1,670	110.0%		18,000	102.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,724	12,486	+762	106.5%		12,122	103.0%
償却前経常利益	31,833	33,203	+1,369	104.3%		32,800	101.2%
ROE	8.2%	8.4%					
当期純利益率	5.3%	5.3%					
総資産回転率	0.74	0.80					
財務レバレッジ	2.10倍	1.98倍					

特記事項

<製品>

- ・エコ製品や低発泡容器など付加価値の高い製品の販売が堅調
- ・製品枚数 通期101.2%
物価高によりスーパーマーケットの販売が前年を下回る中で伸長
2020年3月期からの年平均成長率は1.9%と伸長
- ・製品価格改定効果の反映

<商品>

- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
- ・アベックスのM&A効果

前年比（実績）

(%)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期計画
製品売上高	99.8	105.1	102.5	108.6	107.4	108.1	105.3	104.8
商品売上高	117.6	117.0	117.3	104.1	98.3	101.4	108.7	111.4
経常利益	69.2	107.1	90.1	127.4	119.4	125.0	110.0	107.3
製品枚数	101.8	103.0	102.4	101.1	98.8	100.0	101.2	102.5

利益率（実績）

(%)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期計画
営業利益率	4.0	7.2	5.6	12.7	6.6	9.9	7.8	7.5
経常利益率	4.1	7.2	5.7	12.7	6.4	9.9	7.8	7.6
純利益率	2.6	4.8	3.8	8.6	4.4	6.7	5.3	5.1

経常利益 利益増減実績 (2025年3月期)

単位：億円

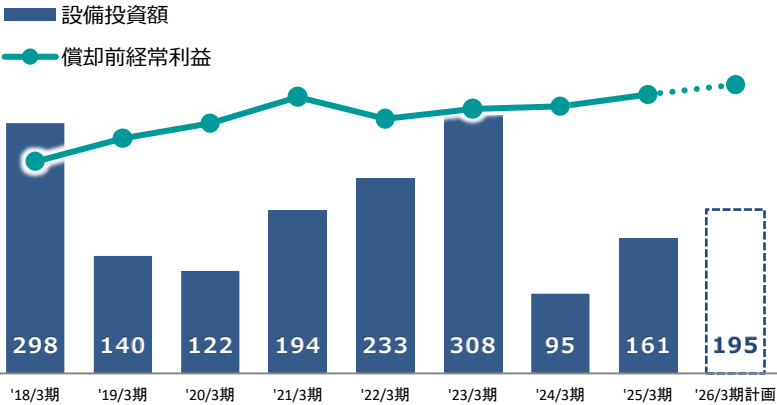


設備投資・研究開発費 (2025年3月期 実績)

(百万円)	通期 実績				通期計画	
	2024年3月期	2025年3月期			2025年3月期	
	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比
有形固定資産	9,098	15,761	+ 6,662	173.2%	14,500	108.7%
無形固定資産	493	351	▲142	71.2%	500	70.3%
設備投資	9,591	16,112	+ 6,520	168.0%	15,000	107.4%
減価償却費	15,052	14,751	▲301	98.0%	14,800	99.7%
研究開発費	1,483	1,543	+ 60	104.1%	1,610	95.9%

(百万円)				
【主な設備投資】	稼働時期	投資総額	通期実績	通期計画
■オリジナル製品への投資：IコAPET製品の生産能力・品質向上				
IコAPET原料 生産性向上（関東・中部）		780	388	780
IコAPET原料 生産能力増強（NPR・関東）		899	346	899
IコAPET製品 生産能力増強		973	950	973
■販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備				
自動化設備の導入			295	429
従来素材製品能力増強			833	890
■関西選別センター	2024年10月	944	691	753
■グループ会社 ダンボール工場増床	2024年8月	3,527	1,427	1,473
■金型			1,706	1,872
■I T 投資			382	525
■選別能力増強 透明トレー選別装置		225	157	150

指標の推移（億円）



貸借対照表 (2025年3月期 実績)

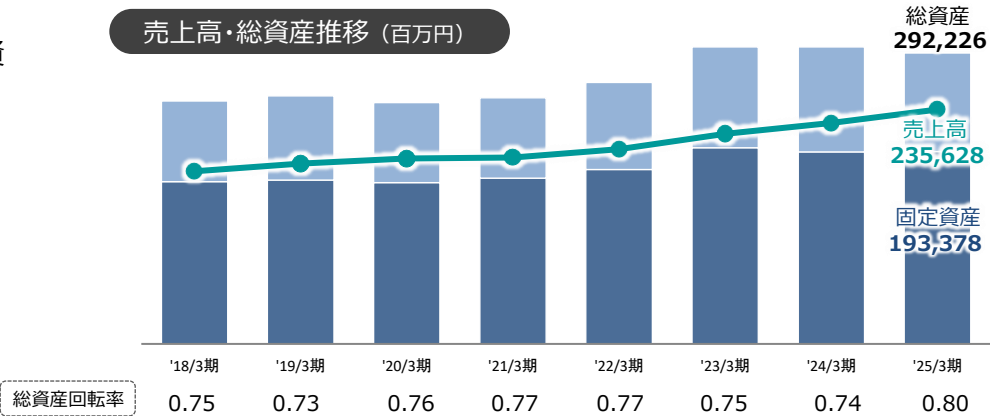
(百万円)	前連結会計年度	当連結会計年度			
	2024年3月期 2024/3/31	2025/3/31	増減	前年比	主な増減内訳
流動資産	105,516	98,847	▲6,668	93.7%	現金及び預金 ▲4,686 受取手形及び売掛金 ▲4,694
固定資産	193,063	193,378	+ 314	100.2%	投資有価証券 ▲685
資産 合計	298,580	292,226	▲6,354	97.9%	
流動負債	86,201	84,372	▲1,828	97.9%	
固定負債	66,534	53,739	▲12,795	80.8%	長期借入金 ▲12,698
負債 合計	152,735	138,111	▲14,623	90.4%	
純資産 合計	145,844	154,114	+ 8,269	105.7%	利益剰余金 + 7,907
負債純資産 合計	298,580	292,226	▲6,354	97.9%	
自己資本比率	48.6%	52.5%			

- 資産

 - オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
 - インフラ活用によるM&A、取引先との連携強化
 - 政策保有株式の売却
- 負債

 - 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産

 - 低利での資金調達に向けたA格の維持
 - 株主還元の充実強化



キャッシュ・フロー（2025年3月期 実績）

(百万円)	通期		
	2024年3月期	2025年3月期	
	実績	実績	主な内訳
営業活動によるC/F	29,176	27,919	税金等調整前当期純利益 18,286 減価償却費 14,751 法人税等の支払額 ▲ 5,191
投資活動によるC/F	▲ 10,711	▲ 14,929	有形固定資産の取得 ▲ 14,828
フリーキャッシュフロー	18,464	12,990	
財務活動によるC/F	▲ 17,013	▲ 18,070	長期借入れによる収入 2,000 長期借入金の返済 ▲ 14,274 配当金の支払額 ▲ 4,605
現金及び現金同等物の増減額	1,451	▲ 5,079	
現金及び現金同等物の期末残高	23,707	19,020	

営業CF

- オリジナル製品販売と合理化による利益確保

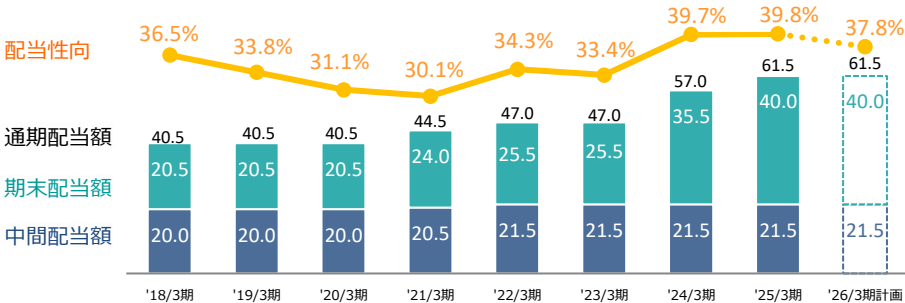
投資CF

- 収益基盤整備に向けた戦略投資
- 製品・サービスの拡充、物流インフラの活用に向けたM&A

財務CF

- 株主還元の充実強化
配当性向40%を目途とし累進配当

配当の推移（円）



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

2026年3月期 計画

計画概要（2026年3月期）

	通期実績				通期 計画			上期 計画		
	2025年3月期				2026年3月期			2026年3月期		
	実績	実績	計画	増減	前年比	計画	増減	計画	増減	前年比
(百万円)										
トレー	44,497		46,510	+ 2,012	104.5%	22,397	+ 1,324	106.3%		
弁当・惣菜	132,817		138,882	+ 6,064	104.6%	69,013	+ 4,045	106.2%		
小計	177,314		185,392	+ 8,077	104.6%	91,410	+ 5,369	106.2%		
その他製品	3,455		3,608	+ 152	104.4%	1,690	+ 98	106.2%		
製品売上高	180,770		189,000	+ 8,229	104.6%	93,100	+ 5,468	106.2%		
包装資材	52,802		54,240	+ 1,437	102.7%	26,873	+ 637	102.4%		
その他商品	2,055		2,060	+ 4	100.2%	1,027	+ 1	100.1%		
商品売上高	54,858		56,300	+ 1,441	102.6%	27,900	+ 638	102.3%		
売上高	235,628		245,300	+ 9,671	104.1%	121,000	+ 6,107	105.3%		
営業利益	18,471		19,790	+ 1,318	107.1%	7,630	+ 1,157	117.9%		
経常利益	18,451		19,600	+ 1,148	106.2%	7,600	+ 1,079	116.6%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,486		13,170	+ 683	105.5%	5,010	+ 672	115.5%		
償却前経常利益	33,203		34,400	+ 1,196	103.6%	14,900	+ 932	106.7%		

特記事項

<製品>

- ・製品枚数102%
工コ製品や軽量化製品の需要拡大
- ・製品価格改定効果
- ・冷凍食品や病院介護食市場に対する、
省人化・効率化に向けた製品提案

<商品>

- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案、サービスの向上

前年比（計画）

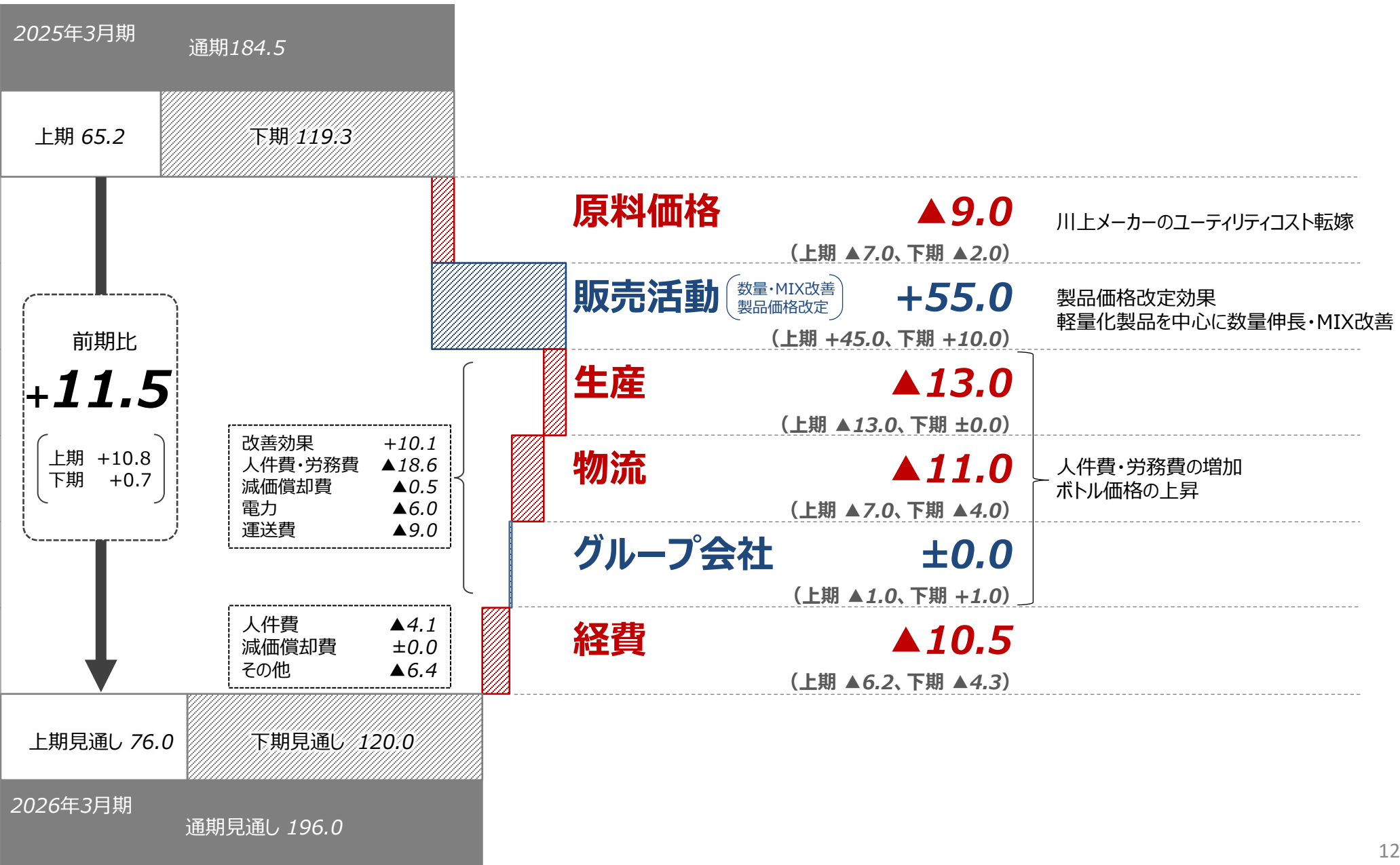
(%)	上期計画	下期計画	通期計画
製品売上高	106.2	103.0	104.6
商品売上高	102.3	102.9	102.6
経常利益	116.6	100.6	106.2
製品枚数	101.5	102.5	102.0

利益率（計画）

(%)	上期計画	下期計画	通期計画
営業利益率	6.3	9.8	8.1
経常利益率	6.3	9.7	8.0
純利益率	4.1	6.6	5.4

経常利益 利益増減見通し (2026年3月期)

単位：億円

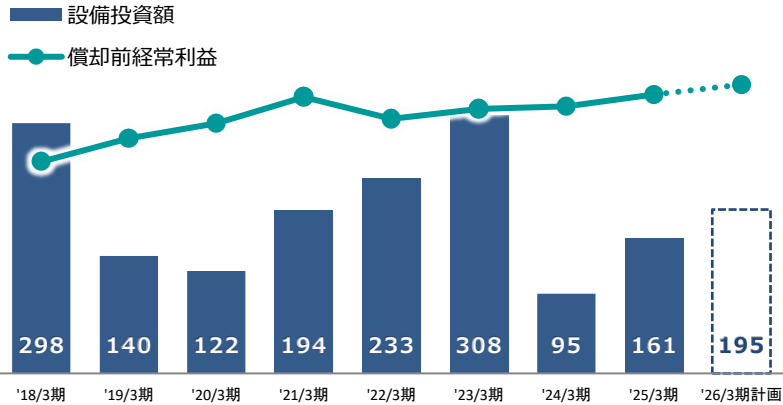


設備投資・研究開発費 計画（2026年3月期）

	通期実績	通期計画				上期計画		
	2025年3月期	2026年3月期				2026年3月期		
(百万円)	実績	計画	増減	前年比		計画	増減	前年比
有形固定資産	15,761	18,900	+ 3,138	119.9%		9,000	+ 615	107.3%
無形固定資産	351	600	+ 248	170.8%		200	+ 6	103.3%
設備投資	16,112	19,500	+ 3,387	121.0%		9,200	+ 621	107.2%
減価償却費	14,751	14,800	+ 48	100.3%		7,300	▲147	98.0%
研究開発費	1,543	1,780	+ 236	115.3%		920	+ 157	120.6%

(百万円)			
【主な設備投資】	稼働時期	投資総額	2026年3月期計画
■オリジナル製品への投資：EコAPET製品の生産能力・品質向上			
EコAPET原料 生産性向上（関東・中部）		1,018	1,018
EコAPET原料 生産能力増強（関東・NPR）		861	861
EコAPET製品 生産能力増強		1,059	1,059
■販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備			
自動化設備の導入			542
従来素材製品能力増強			1,022
■筑西倉庫	2026年12月	1,473	69
■金型			1,989
■IT投資			539

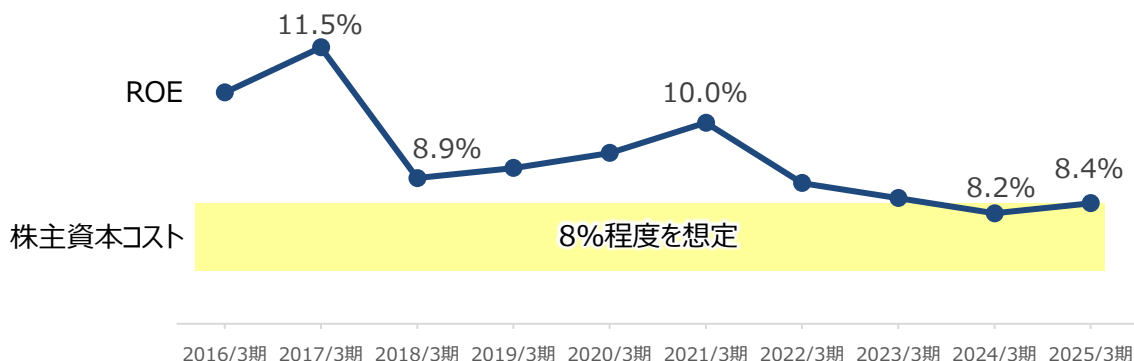
指標の推移（億円）



ROEの分析

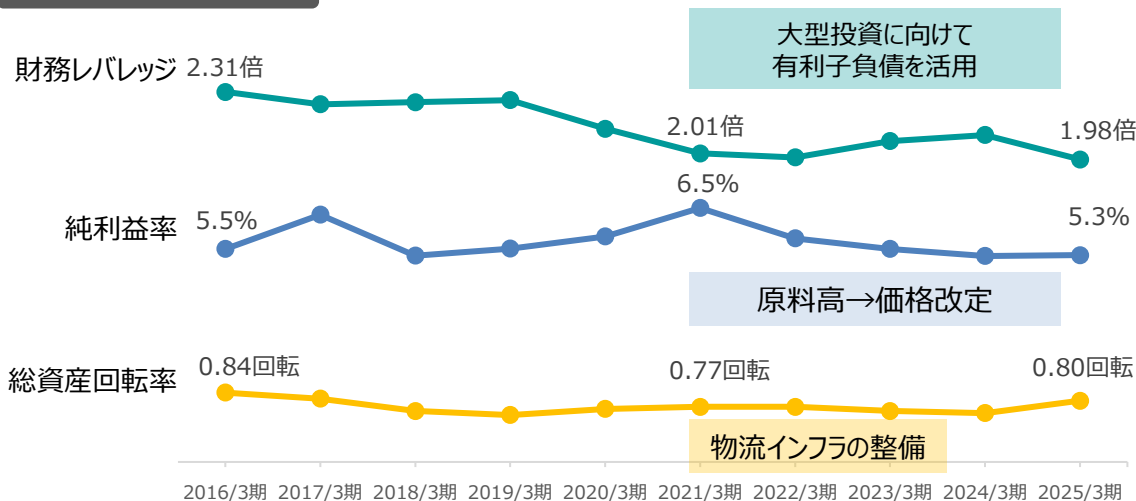
- 大型投資により差別化を推進、ROEは横ばい
- 価格改定の浸透により純利益率は上昇傾向、グループインフラの活用により総資産回転率向上へ

ROEの推移



- 過去10年間のROEは8～12%で推移
- 業績は堅調である一方でROEは横ばい傾向
- 大型投資により物流、リサイクル等で差別化を推進
業界におけるトップメーカーとしての地位をさらに確立

ROE構成要素の推移



- **純利益率**
価格改定を実施し2025/3期下期より上昇傾向
- **総資産回転率**
物流インフラの整備が完了、
M&Aや包材問屋との連携に活用
- **財務レバレッジ**
大型投資を検討中、有利子負債を活用予定

企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

- 01. 原料動向と価格改定**
- 02. 製品戦略**
- 03. エコ戦略**
- 04. エフピコグループのインフラ活用**
- 05. 新OPPシートによる用途開発**
- 06. 企業価値拡大に向けて**

01. 原料動向と価格改定

02. 製品戦略

03. エコ戦略

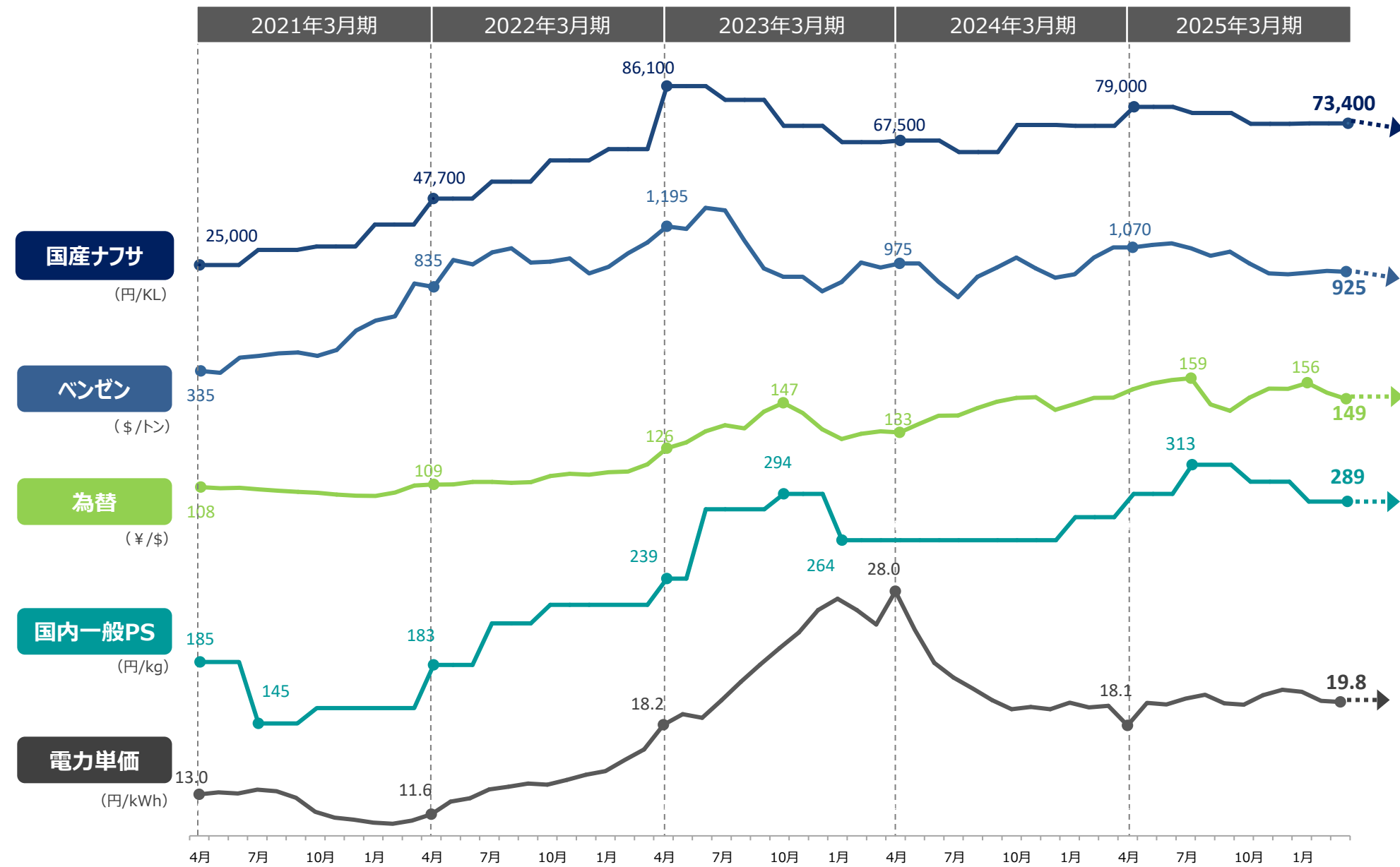
04. エフピコグループのインフラ活用

05. 新OPPシートによる用途開発

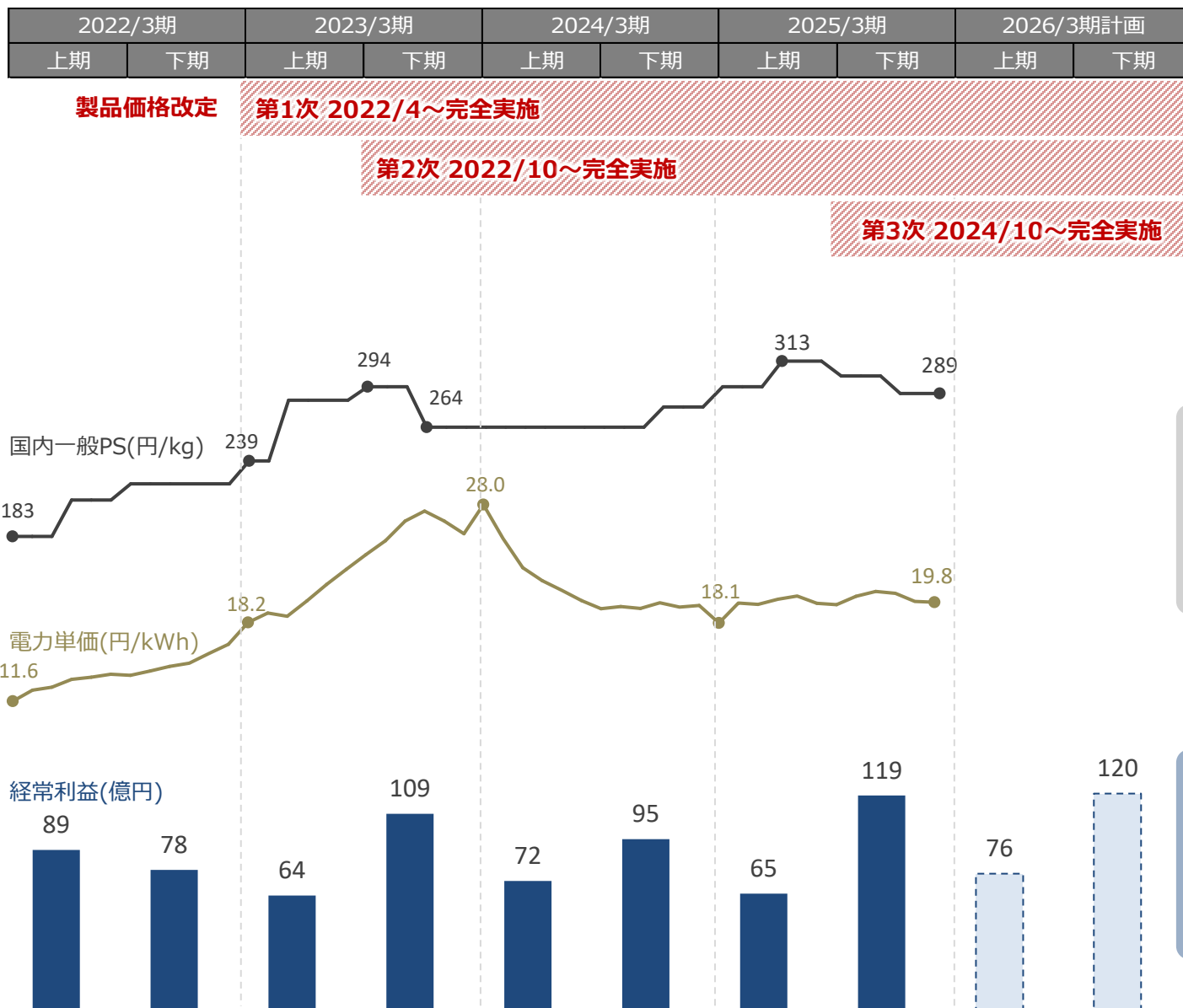
06. 企業価値拡大に向けて

原料と電力価格の動向

(2025年4月時点)



経常利益の推移



2022年3月期以降、
原料値上がりとユーティリティコスト
上昇が相次ぐ

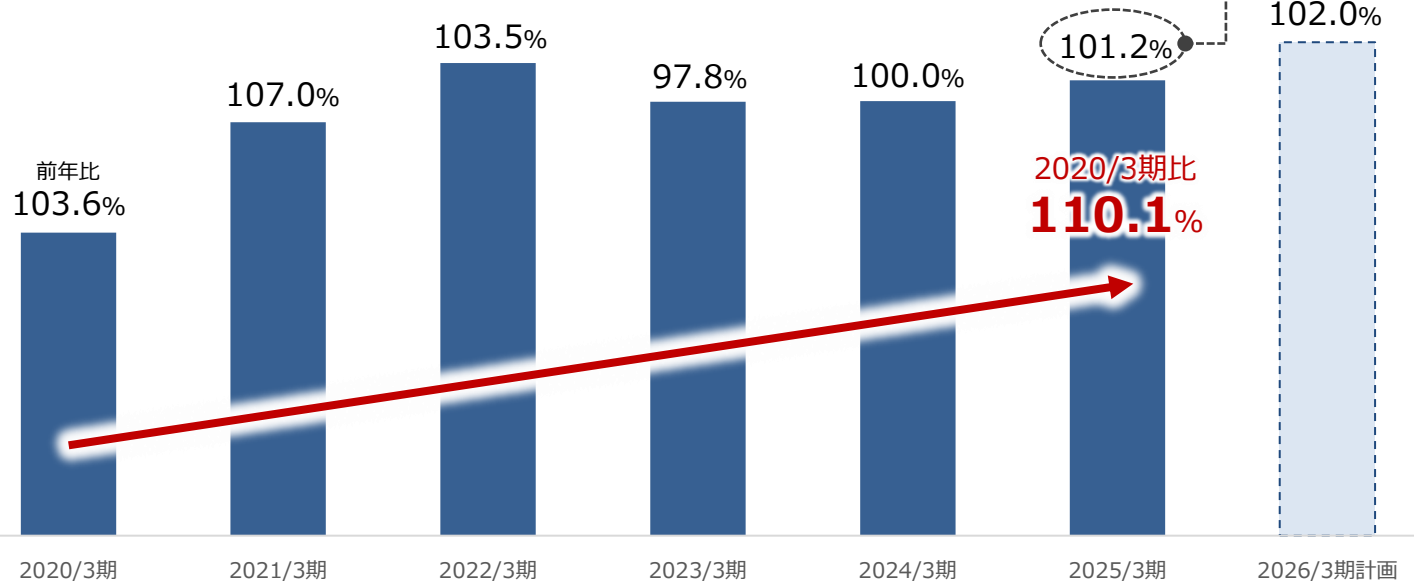
3度の製品価格改定を実施し、
経常利益が回復

製品販売数量の状況

物価上昇を背景に買い控えの影響があるものの、

エコ・軽量化製品を中心に数量伸長

年平均成長率 **1.9%**



2025年3月期

1Q: 101.8%

2Q: 103.0%

3Q: 101.1%

4Q: 98.8%

→エコ製品が堅調に推移

→本体・蓋一体型のかん合容器が伸長

→稼働日△1日

本体・蓋一体型のかん合容器が伸長

コロナウイルスによる行動制限

内食需要の拡大

反動減

食品を中心とした幅広い物価上昇

01. 原料動向と価格改定

02. 製品戦略

03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 新OPPシートによる用途開発

06. 企業価値拡大に向けて

ニーズの変化への対応

利益率
回転率

人手不足 ▶ 機械化に対応した容器

惣菜PCの
製造工程

容器供給

盛付け

蓋閉め・トップシール

ラベル貼り

コンテナ収納・輸送

PC供給もインスタも
対応できる容器



MSDレニア

トップシールと蓋を併用できる容器



AP-TS丸

変形しにくい
強度のある容器



APデリオ

Point

**機能・強度
輸送効率**

原材料の高騰 ▶ 見せ方・値ごろ感の演出



MSDレニア



MFPパシオ



Point

**サイズ追加で
量目の変化に対応**
(小型化・蓋の高さを調整)

プラスチック使用量削減① 低発泡化容器

利益率
回転率



氷河桶PT

プラスチック使用量（HI製品本体比）

約60%削減



祝賀桶PT

祝賀桶・氷河桶
2024年4月～2025年3月

前年比

122.9%

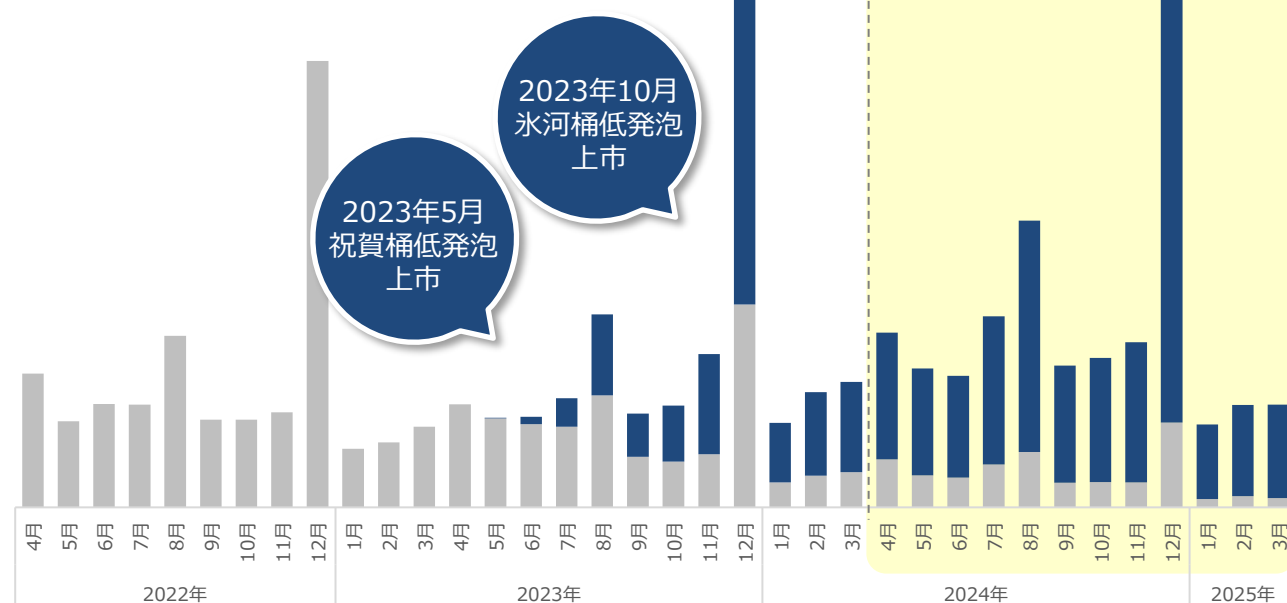
すべて非発泡と仮定した場合に比べて

プラスチック使用量 **541トン削減**

(1,078トン → 537トン)

祝賀桶・氷河桶 出荷実績（枚数ベース）

■ 低発泡
■ 非発泡



プラスチック使用量削減② 惣菜容器を全面刷新

利益率
回転率

従来のAP惣菜・MSD惣菜から **88型・232アイテム順次切替**

プラスチック使用量削減



平均約 **10.3%**削減 = **680**トン/年削減

AP惣菜・MSD惣菜 出荷実績

6,600トン/年



APデリオ・MSDデリオへの切替によって

5,920トン/年

機械化対応

自動蓋閉め機・手閉め どちらにも対応する強度



汁漏れ防止

密封性の高い高精度な成形



プラスチック使用量削減③ 耐寒容器

利益率
回転率

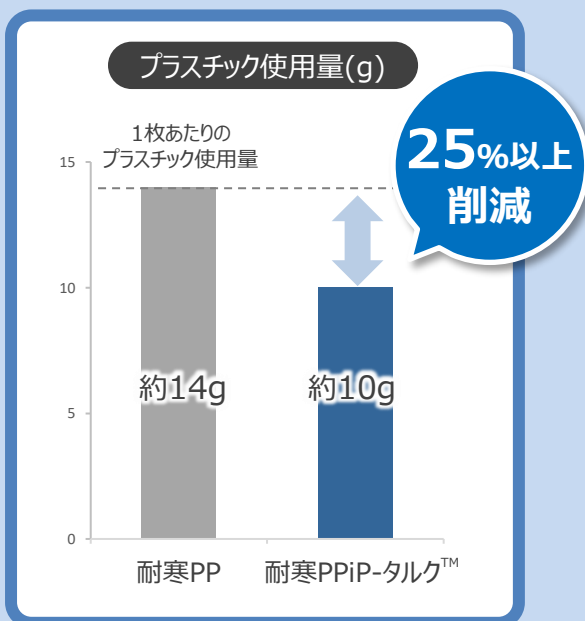
新素材「耐寒PPiP-タルク™」を開発

2種類の無機物を均一に分散配合することで、
従来品の耐寒PPと比較して**耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量**が変わらず、**同等の原価**で

プラスチック使用量を25%以上削減



FTデリブレ角



冷凍の活用により現場オペレーション改善

採用事例

冷凍



FT-TS角20-15縮2

解凍



チャンスロス・食品ロス 約20%削減 (関西A社)

01. 原料動向と価格改定

02. 製品戦略

03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 新OPPシートによる用途開発

06. 企業価値拡大に向けて

お店を発着点とした「ストアtoストア」

お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトル は
そのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する



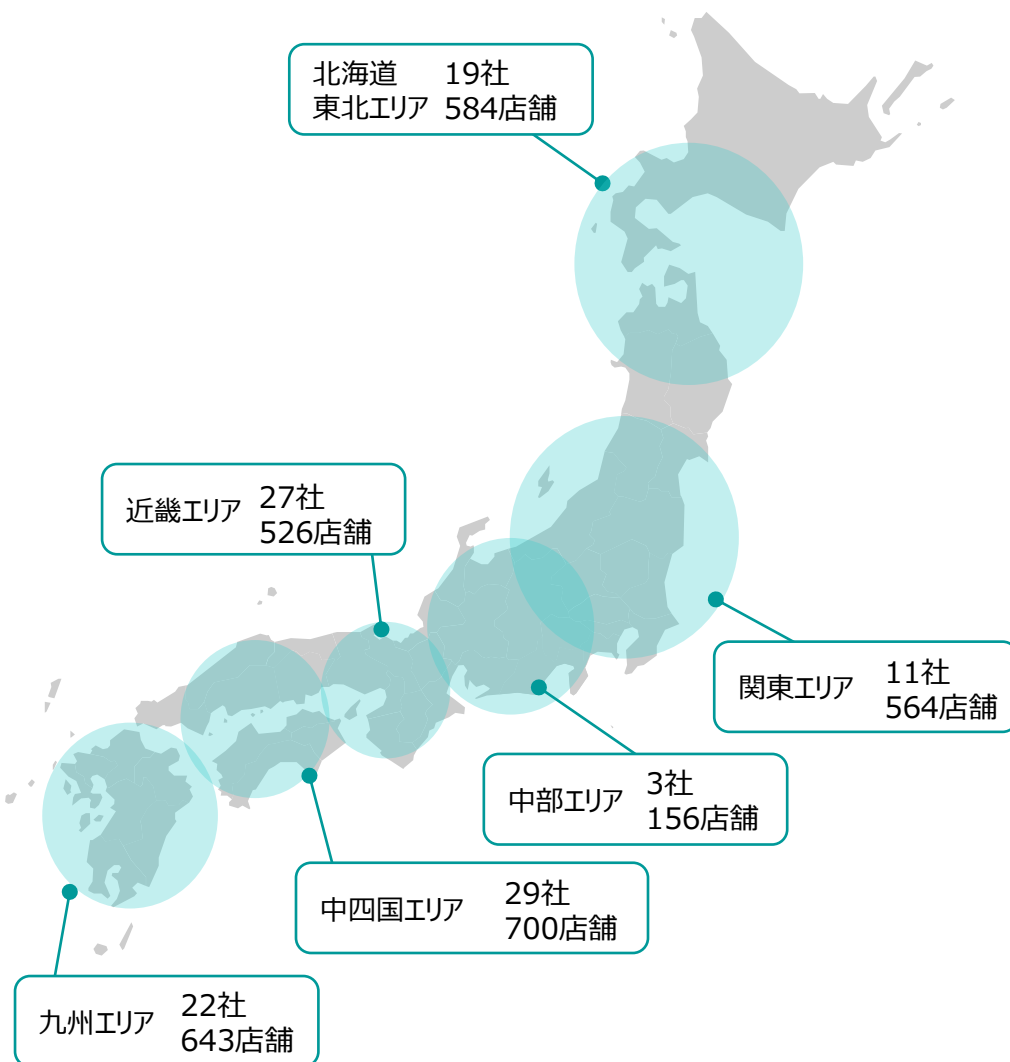
エコ製品伸長の背景

「ストアtoストア」協働宣言

111社 **3,173**店舗

※2025年5月時点

協働宣言店舗数推移



エコ製品によるCO2排出量の削減

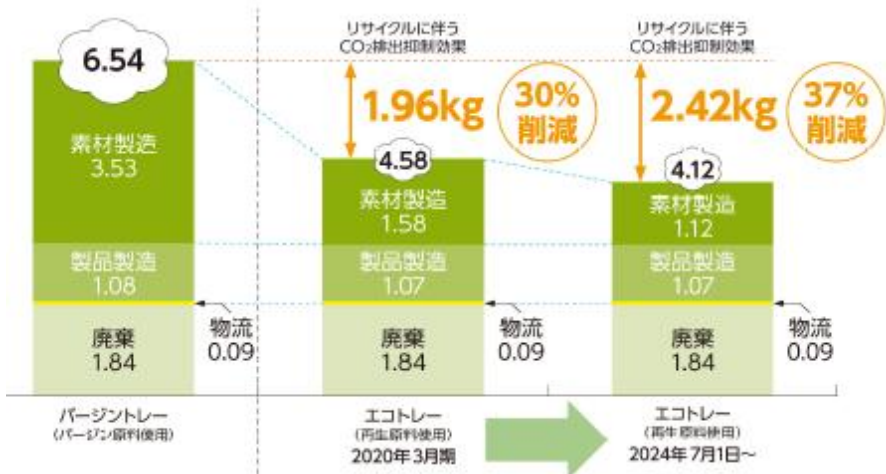
エコトレー



CO2排出量削減効果
(2024.7.1出荷分～)

30% ➡ 37%

※全国3カ所のリサイクル工場で、太陽光発電を使用することによりCO2削減効果が増加

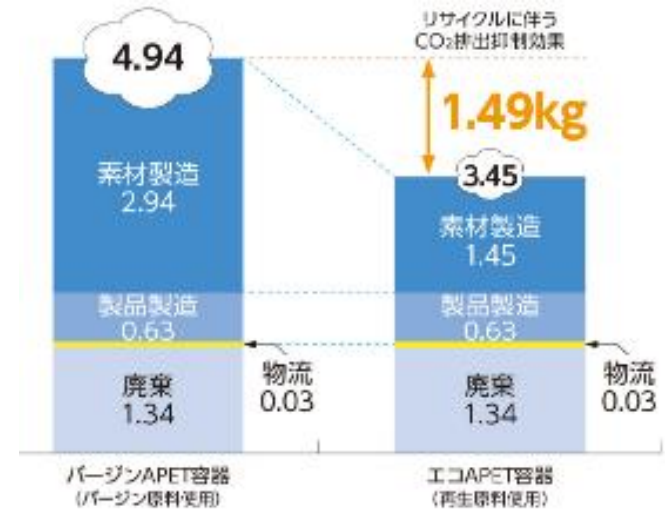


エコAPET・OPET容器



CO2排出量削減効果

30%



エコ製品によるCO₂削減への貢献

エコ製品の製造で削減できる CO₂排出量

2024年3月期 20.2万トン  2025年3月期 20.9万トン

>

グループCO₂排出量

2024年3月期 18.7万トン  2025年3月期 17.9万トン

エコPET
4.5万トン

エコAPET
10.4万トン

エコトレ
6.1万トン

オフィス部門 0.3万トン
物流部門 0.2万トン

製造部門
17.3万トン

CO₂削減量の増加要因

① 太陽光発電による 再生エネルギー導入

エコPSP製品のCO₂削減量

30% ▶ 37%削減

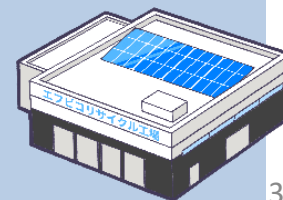
② エコ製品の販売が好調

2025年3月期 前年比（枚数）

106.2%

CO₂排出量の減少要因

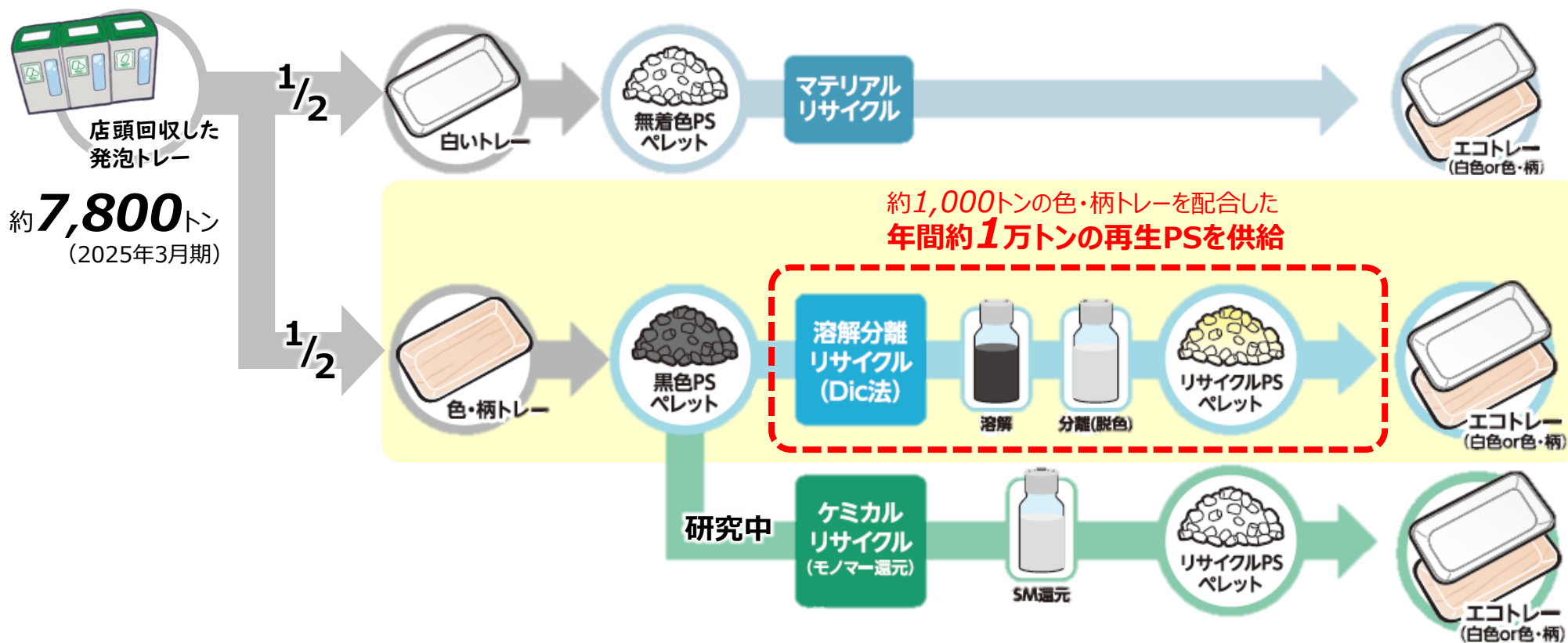
再生エネルギーの活用 省エネルギーの推進



エコトレーの販売拡大に向けて

利益率
回転率

溶解分離リサイクルにより エコトレー販売ケース数 約30%増加



エコ製品売上

913 億円

(2025年3月期)

エコ化率
(枚数ベース)

51 %

(2025年3月期)

エコ化率伸長により
シェア拡大・収益性の向上

PSP : 溶解分離リサイクルの技術

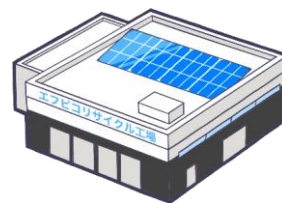


カラートレーtoトレ

エコトレの販売ケース数

約30%増加

PET : 再生原料の生産能力増強



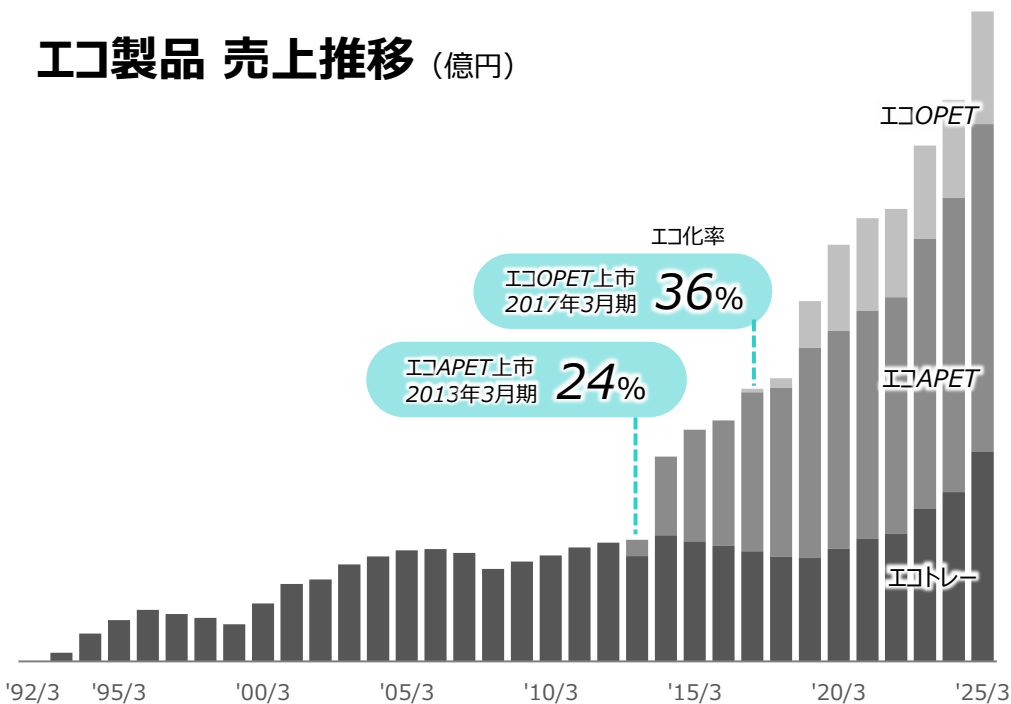
エコ原料生産能力

6.5万トン ▶ 7.5万トン

(2026年春予定)

押出機増設

エコ製品 売上推移 (億円)



01. 原料動向と価格改定

02. 製品戦略

03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 新OPPシートによる用途開発

06. 企業価値拡大に向けて

全国をカバーする物流ネットワーク

半径100kmで主要都市を含む
全人口の85%をカバーする
物流ネットワーク



関西工場・関西ハブセンター

稼働時期：2023年1月
投資額：266億70百万円
延床面積：79,883.65㎡



M&A実績

2010年 エピコインターパック

売上高： 175億円▶284億円
経常利益： 4.3億円▶8.5億円
(M&A時点▶2025/3期実績)

2014年
エピコみやこひも
(2022年
エピコ商事に吸収合併)

2016年
エピコイシダ、エピコ上田
(※事業規模僅少)

2023年 アベックス

売上高： 100億円▶102億円
経常利益： 5.5億円▶4.7億円
(M&A時点▶2025/3期実績)

2025年
前橋包装
(※事業規模僅少)

エピコグループのインフラ

問屋標準基幹システム

全国のディーラー7社導入済み
アベックス導入中

製商品の ピッキングインフラ

マーチャンダイジング

エピコ商事のMD

アイテム選定、在庫集約
PB商品の充実

包装資材のECサイト 「パックマーケット」



エピコインターパックによるグループインフラの活用

回転率

エピコ

最小ロットでお届け

MBS (ミックスバラシステム)

・容器を店別・部門別に
袋単位でピッキング

ECサイト パックマーケット

・容器・資材消耗品をピッキング
・受発注・決済システム



問屋様

問屋様のメリット

- ✓ ピッキング作業の軽減 (人手不足対応)
- ✓ 在庫費用圧縮
- ✓ 在庫滞留リスクの軽減
- ✓ スペース確保による生産性向上
- ✓ 欠品リスクの軽減
- ✓ 従来アプローチできなかった
小口マーケットの獲得

ユーザー

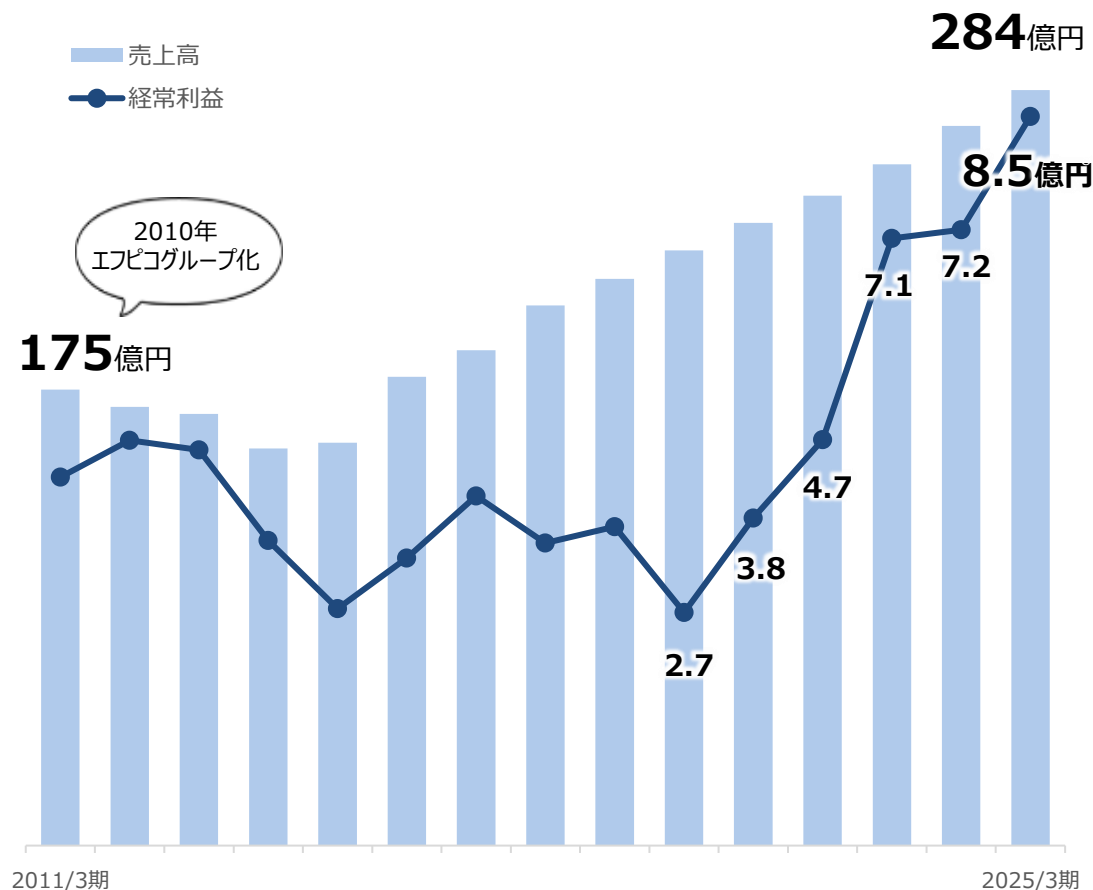
スーパーマーケット



飲食店



業務労働生産性



Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

所在地：マレーシア

取得総額：約167億円（当社取得額：約67億円）

持分比率：三井物産 60%、エフピコ 40%

売上高：79億円（2025/3期）※売上構成 国内 6：海外 4



ステップ1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ 成形機、押出機等の新設備の導入
- ▶ 製品開発技術の向上
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ2

マレーシア・シンガポールで 圧倒的シェア獲得

ステップ3

さらに拡大が期待される 東南アジア市場の礎へ

- 01. 原料動向と価格改定
- 02. 製品戦略
- 03. エコ戦略
- 04. エフピコグループのインフラ活用
- 05. 新OPPシートによる用途開発**
- 06. 企業価値拡大に向けて

世界初の新シートを開発①

超高剛性2軸延伸ポリプロピレンシート製造機を正式発注

一般的なOPP

- 厚さ：30～50ミクロン
- 用途：食品用軟包装資材等

エピコ独自素材 新OPP

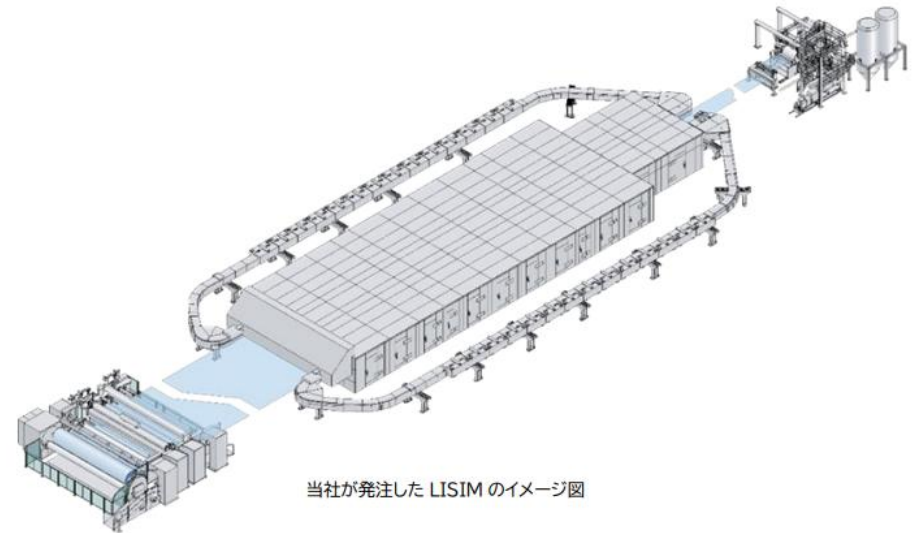
新OPPシート

(厚さ：150～300ミクロン)

新OPP積層プレート

(厚さ：1～3ミリ)

用途：(食品容器)既存の素材から切替
(産業分野)土木建設資材、住設、家電、太陽電池、自動車等



当社が発注した LISIM のイメージ図

2027年末 稼働予定

世界初の新シートを開発②

食品容器における新OPPシートの優位性

透明容器の素材比較

		新OPP (2軸延伸PP)	OPS (2軸延伸PS)	APET (無延伸PET)	OPET (2軸延伸PET)	透明PP (無延伸PP)
透明性		○	○	○	○	△
耐熱性		110℃	80℃	60℃	80℃	110℃
耐寒性	-18℃	○	△	×	○	×
	-30℃	○	△	×	○	×
同強度時の 容器重量	○軽い ×重い	○	△	×	△	×
耐油性		○	×	○	○	○

世界初の新シートを開発③

新OPPシート・積層プレート10の特徴

素材の特徴

- 1. 低比重
- 2. 耐薬品性
- 3. リサイクル性



延伸の特徴

- 4. 透明性
- 5. 高光沢
- 6. 高剛性
- 7. 高靱性
- 8. 耐寒性



開発品の特徴

- 9. 成形性
- 10. 加飾性



土木建設資材、住設、家電、太陽電池、自動車等への展開を見込む

- 01. 原料動向と価格改定
- 02. 製品戦略
- 03. エコ戦略
- 04. エフピコグループのインフラ活用
- 05. 新OPPシートによる用途開発
- 06. 企業価値拡大に向けて**

企業価値拡大に向けて

当社が目指す姿

収益性を高め、グループインフラの活用により資産回転率を向上し、適切なレバレッジを維持しながら、企業価値の向上を図りたいと考えます。

投資の方針

年平均200～250億円を目途とし、業界内でのさらなる差別化を進めていきます。全国の物流インフラ整備に続いて、今後は新OPPを始めとした新素材開発や海外事業を強化し、収益の向上、成長の強化に努めてまいります。

企業価値を上げるための考え方

- ① 中長期的な成長に向けて
 - ・他社にないオリジナル製品の拡大、エコ比率の向上
 - ・物流インフラを活用した問屋連携、M&A
 - ・新素材の研究開発
- ② 安定した株主還元

成長戦略

'26/3期計画 売上 **2,453**億円
経常利益 **196**億円

'30/3期目標 売上 **3,000**億円
経常利益 **300**億円

売上高

グループ会社

エフピコ単体

'03/3期 '06/3期 '09/3期 '12/3期 '15/3期 '18/3期 '21/3期 '25/3期 '30/3期目標

既存事業

【製品】
オリジナル製品
の強化

年平均2~3%成長 1,800億円→2,000億円

- エコ製品、プラスチック使用量削減容器の伸長
- 冷凍、病院・介護給食等の新マーケット獲得



【商品】
グループインフ
ラの活用

年平均5%成長 550億円→650億円

- グループインフラの活用による問屋連携

M&Aによるマーケットの獲得 200億円

新規事業

海外事業
新素材

200億円

- 海外事業
新たなM&Aの検討を含めて海外事業を拡大
- 新素材による新たな事業領域への進出



オリジナル製品の強化

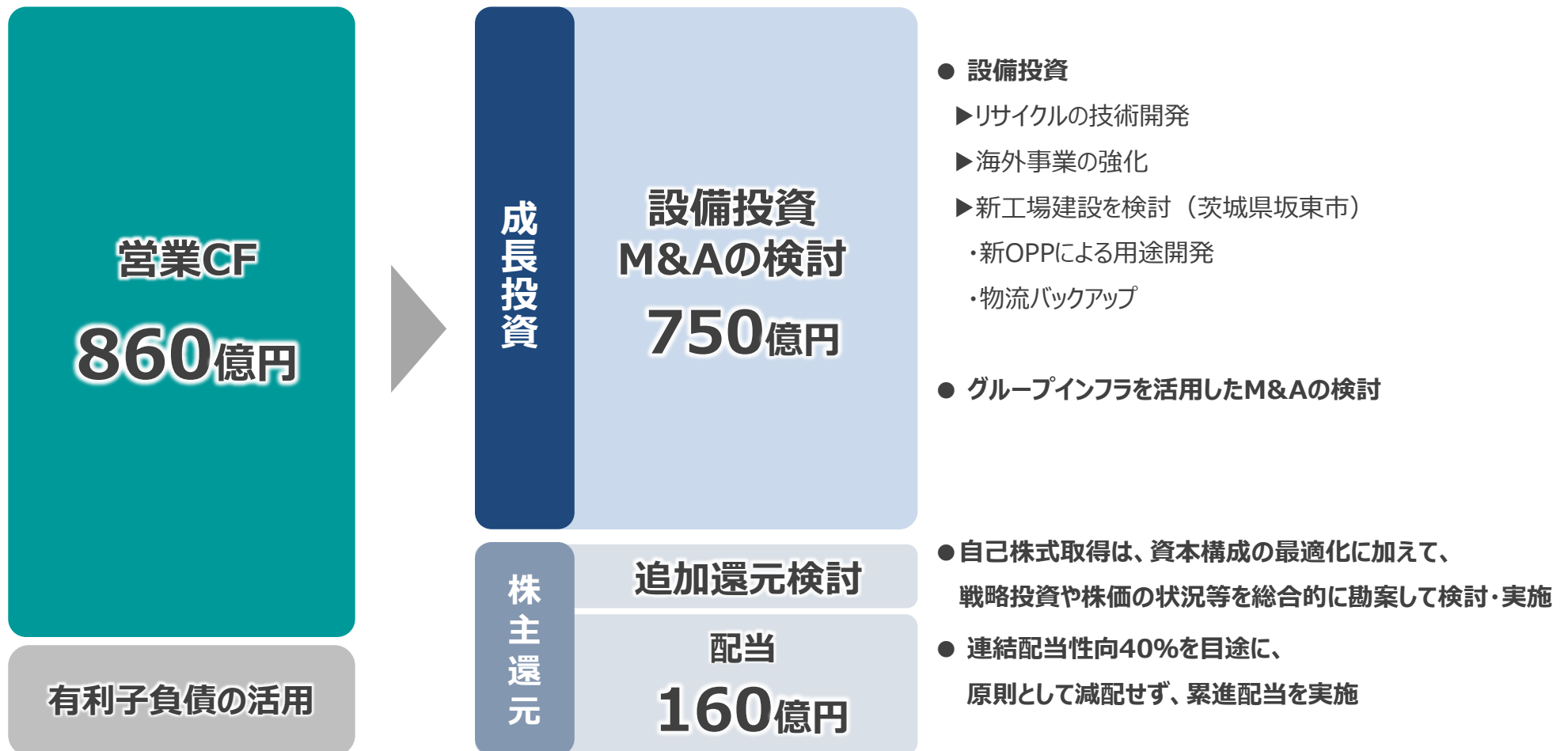
2025/3期 製品売上構成比（枚数ベース）



財務戦略 計画 (2026/3期～2028/3期)

- 営業キャッシュフローおよび資金調達を原資とし、投資・株主還元を戦略的に配分
- 事業に必要なキャッシュポジションは150～200億円
- 格付A格を維持する範囲で有利子負債を活用

2026/3期～2028/3期 (3年間累計)



株主還元

● 配当方針

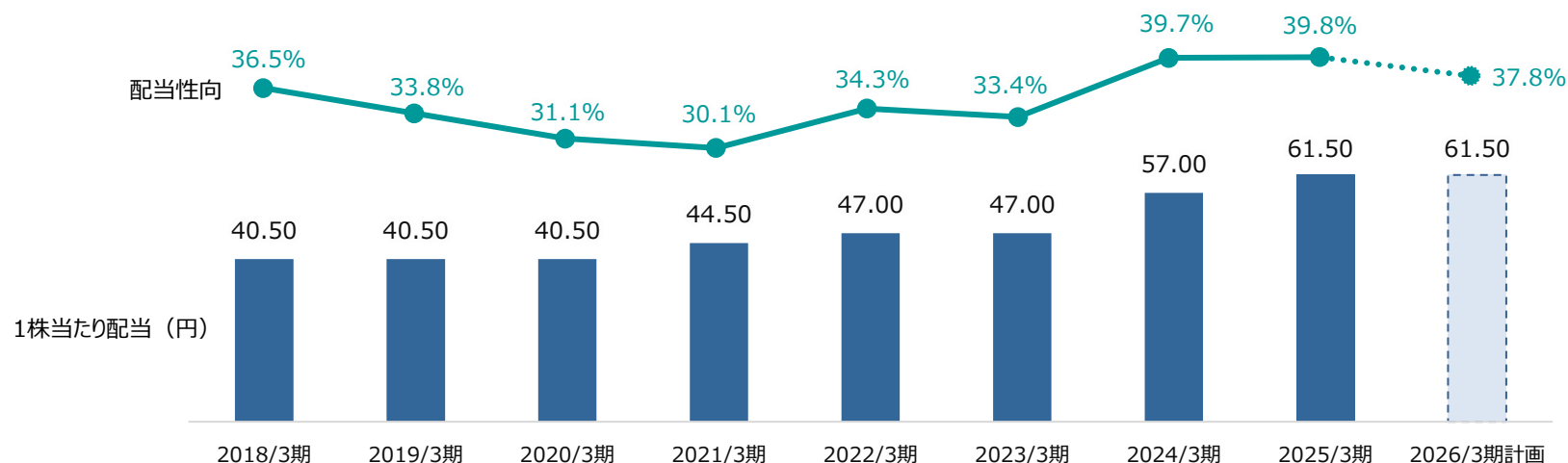
目途とする連結配当性向**40%**、**原則として減配せず、累進配当を実施**
中長期的な利益成長に応じた安定的な配当額の向上を目指す

▶ 2026/3期の1株当たり配当**61円50銭**（期初計画）

▶ 1株あたり利益を高めることで増配を図る

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討



(単位：億円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
配当	33	33	33	37	38	38	46	50
自己株式の取得	－	－	－	40	－	－	30	－
合計	33	33	33	77	38	38	76	50
総還元性向	36.5%	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%	39.8%

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

★:オリジナル製品

	PS	ポリスチレン
	PET	ポリエチレンテレフタレート
	PP	ポリプロピレン
★	エコトレー	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
★	エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET 透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする リサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度+60℃
★	エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃
★	新低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%～60%軽量化
★	マルチFP(MFP)容器	-40℃～+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
★	マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度+110℃
★	透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃（2012年販売開始）
★	耐寒PPiP-タルク容器	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPファイラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量を保持
	OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃
	HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度+90℃
	溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術（2024年11月稼働予定）
	PC（プロセスセンター）	食品の生産及び配送を一括して行うセンター
	配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
	ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
	DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
	PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
	選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適用

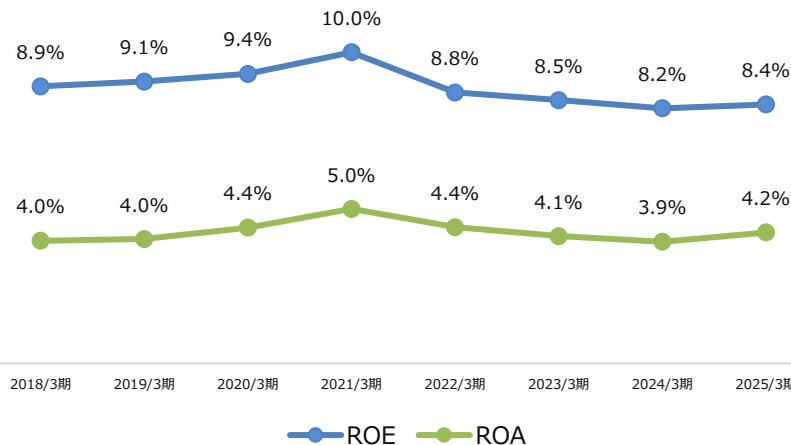
(百万円)

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100	235,628
営業利益	12,884	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429	18,471
経常利益	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780	18,451
純利益	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724	12,486
償却前経常利益	25,255	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833	33,203
売上高経常利益率	7.8%	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%	7.8%
ROE	8.9%	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%	8.4%
ROA（総資産純利益率）	4.0%	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%	4.2%
EPS（円/株）	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50	154.46
配当（円/株）	40.50	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00	61.50
配当性向	36.5%	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%	39.8%
自己株式取得	—	—	—	3,999	—	—	2,999	—
総資産	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580	292,226
純資産	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844	154,114
現預金	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707	19,020
有利子負債	91,991	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785	80,513
自己資本比率	43.4%	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%	52.5%
設備投資	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591	16,112
減価償却費	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052	14,751
研究開発費	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483	1,543
在庫回転月数（ヶ月）	1.53	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57	1.55
リサイクル回収重量（トン）	55,262	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500	90,000
リサイクル回収拠点数（カ所）	9,150	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680	11,000

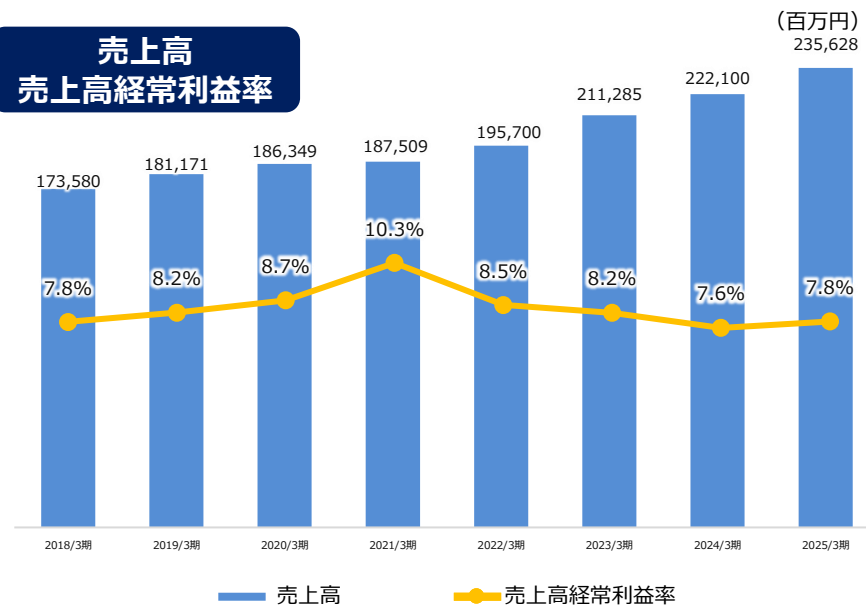
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適用

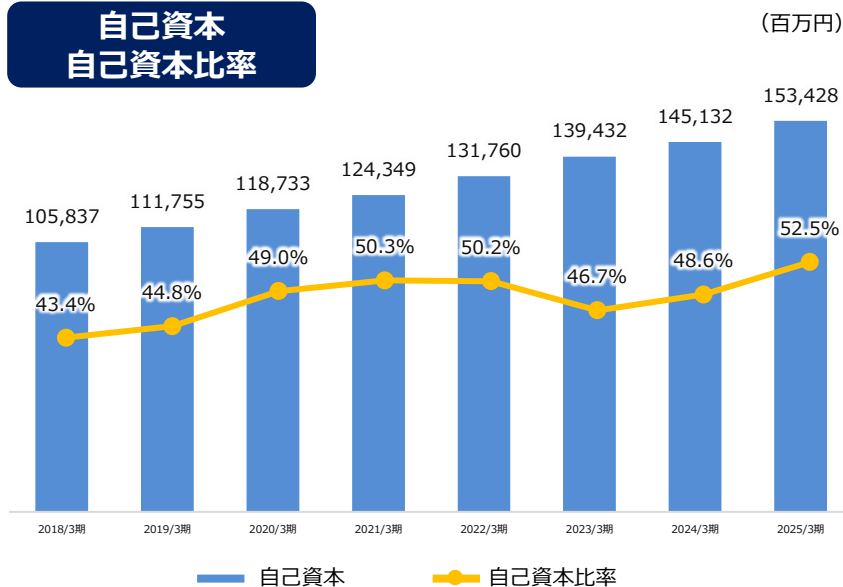
ROE ROA



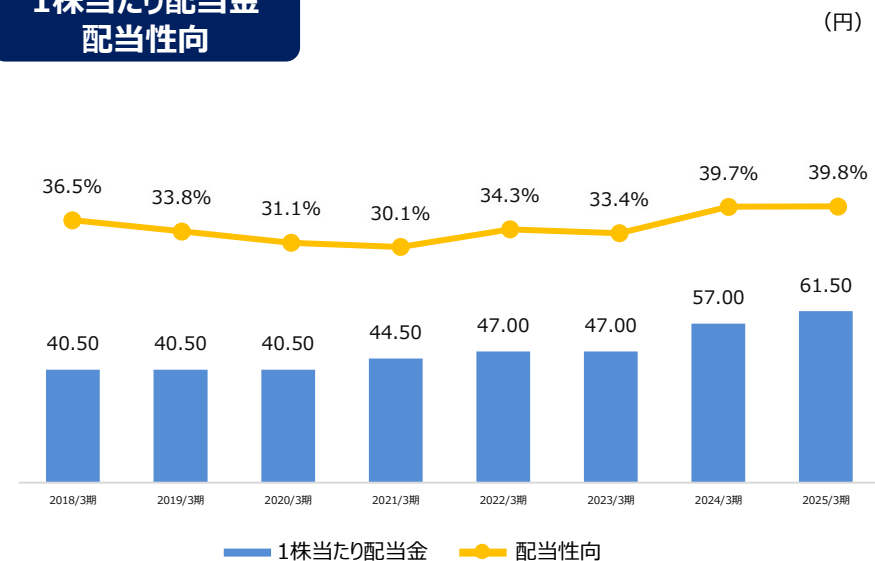
売上高 売上高経常利益率



自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向



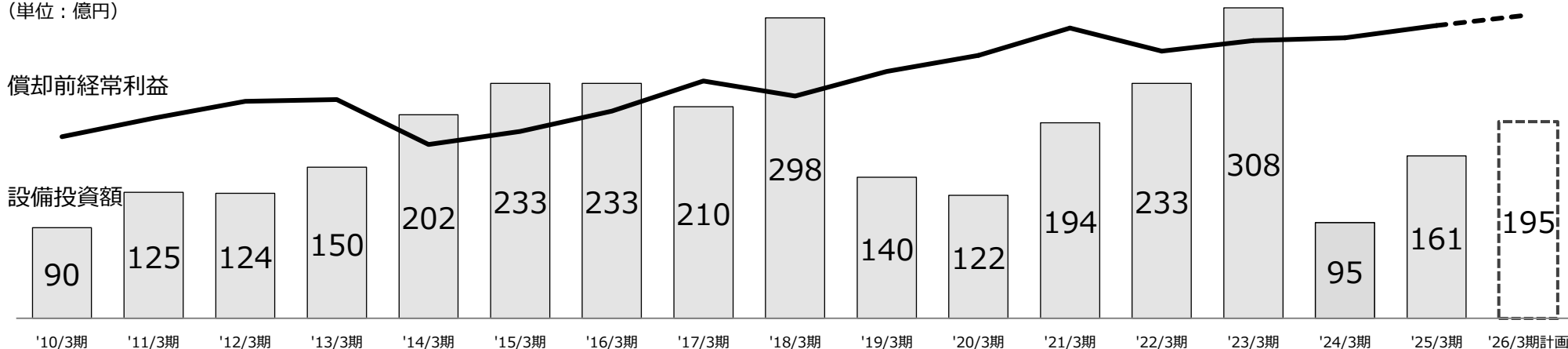
経常利益 増減要因 推移

単位：億円

	'18/3			'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3			'26/3計画		
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期
前期 経常利益	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5
原料価格																			-17.5	-13.9	-31.4	-10.0	-23.0	-33.0	-7.0	-2.0	-9.0
	-13.0	-13.0	-26.0	-14.8	-15.5	-30.3	+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0	-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6									
販売価格																											
	-	+4.5	+4.5	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5																		
販売活動																											
	+6.0	+3.2	+9.2	+4.5	+7.2	+11.7	+3.5	+5.0	+8.5	+7.2	+9.8	+17.0	+11.0	+6.0	+17.0	+4.0	価格改定含む			+56.3	+4.0	+60.3	+11.2	+60.0	+71.2	+45.0	+10.0
生産	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0	-13.0	±0.0	-13.0
物流	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-5.7	-11.7	-7.0	-4.0	-11.0
グループ会社																											
	-	+1.5	+1.5	+0.5	+1.5	+2.0	+2.0	+0.1	+2.1	-0.7	+6.5	+5.8	+4.0	+2.0	+6.0	+2.0	+10.9	+12.9	-2.0	-3.7	-5.7	+3.0	±0.0	+3.0	-1.0	+1.0	±0.0
経費増減	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.5	-10.8	-6.2	-4.3	-10.5
増減 計	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.1	+23.8	+16.7	+10.8	+0.7	+11.5
当期 経常利益	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	76.0	120.0	196.0

戦略投資

(単位：億円)



年間約**200**億円の投資水準

世界初の素材開発

2010年 マルチFP製品 上市
 2012年 マルチソリッド製品 上市
 エコAPET 製品 上市
 OPET 製品 上市
 新透明PP 製品 上市
 2014年 PPi-タルク 製品 上市
 2022年 耐寒PPi-タルク 製品 上市

生産・リサイクル強化

2012年 関東八千代工場
 2016年 中部エコペット工場
 2017年 関東エコペット工場
 2018年 エピコアルライト工場
 エピコグラビア工場
 2022年 中部第一工場
 2023年 関西工場
 2024年 関西選別センター

物流網強化

2012年 中部ピッキング
 2014年 福山クロスドックセンター
 八王子配送センター
 2020年 九州配送センター拡充
 福山ハブセンター拡充
 2021年 中部クロスドックセンター拡充
 2023年 関西ハブセンター

人への投資

2014年 総合研究所・人材開発研修センター
 2018年 広島営業所
 2019年 エピコインターパック本社
 单身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
 2017年 1号館(150戸)
 2号館(102戸)
 2020年 3号館(63戸)
 4号館(18戸)
 2022年 5号館(140戸)

電子レンジ・冷凍市場拡大

ESG投資拡大

路線便値上がり

人手不足

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2023年度～2024年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月	第2四半期 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
5月	決算説明会		
その他イベント			
2023年 6月	国内証券 トップミーティング	業績動向および成長戦略、当社製品の体験	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上	IR担当、部門長
2023年12月	国内投信 機関投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2024年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2024年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 3月	国内投信 個人投資家向け工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	IR担当、部門長

● 個別対話概要（2023年度～2024年度）

延べ対話社数	投資家概要	対応者（案件により異なる）
約380社	中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・IR担当）、常務取締役（総務人事 担当）、サステナビリティ推進室

● 個別工場見学（2023年度～2024年度）

延べ対応社数	対応拠点	対応者（案件により異なる）
約15社	関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難しく、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

耐寒PPP-タルク

- ☆ 従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減
- ☆ 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度重量を保持

PS : ポリスチレン

PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

新透明PP

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

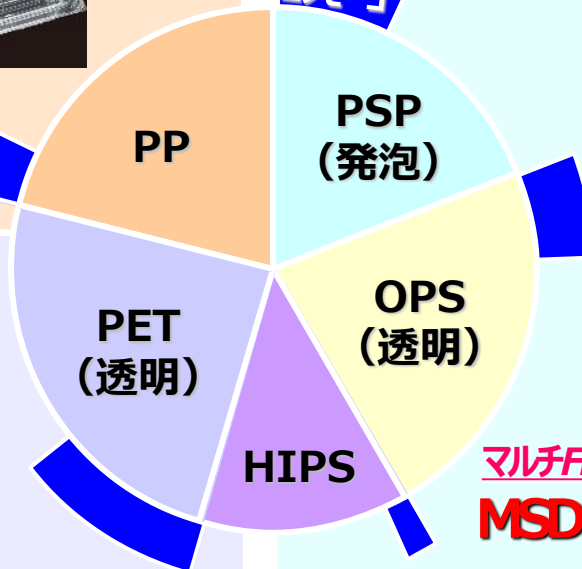
PET : ポリエチレンテレフタレート

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい

エコ



MFP : マルチFP

: 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー
-40℃ ~ +110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能



マルチFP端材の循環

MSD : マルチリッド

: 非発泡PS

OPS : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界

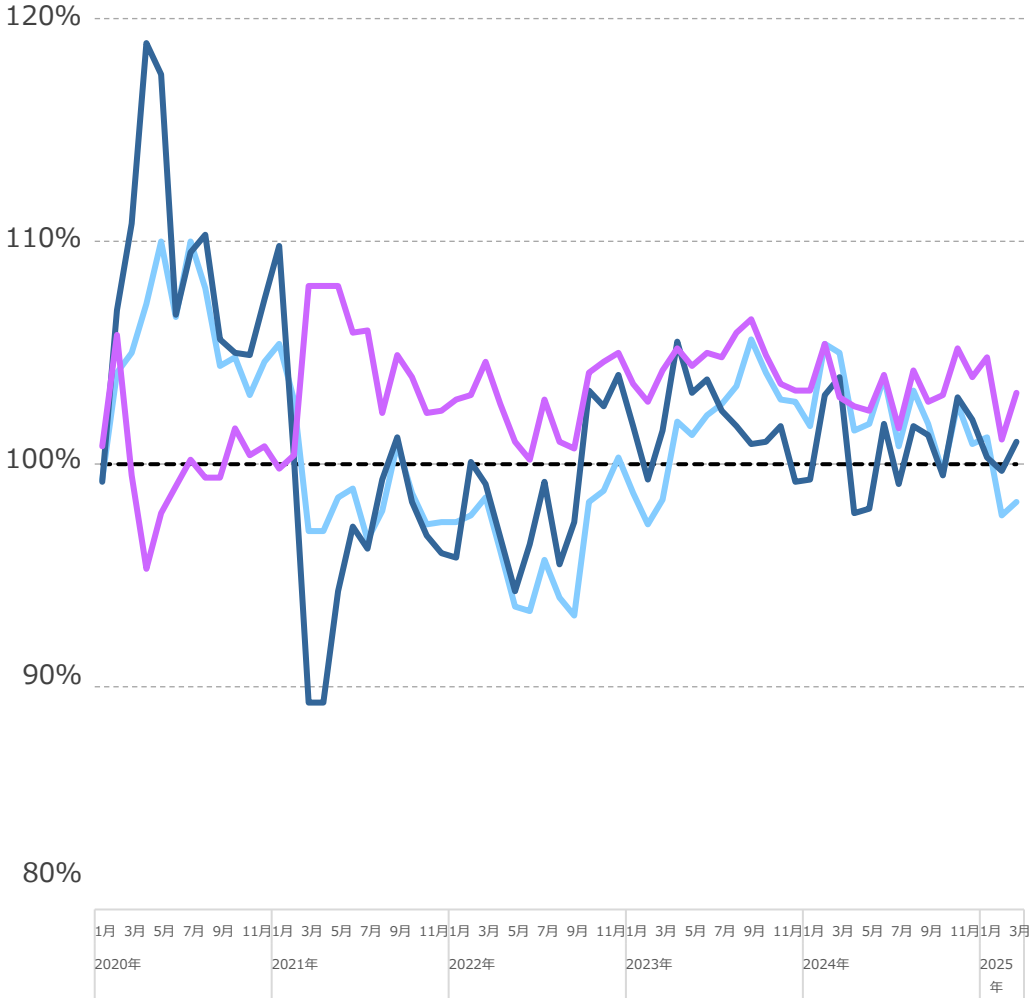


小売動向

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

スーパーマーケット

水産  畜産  惣菜 



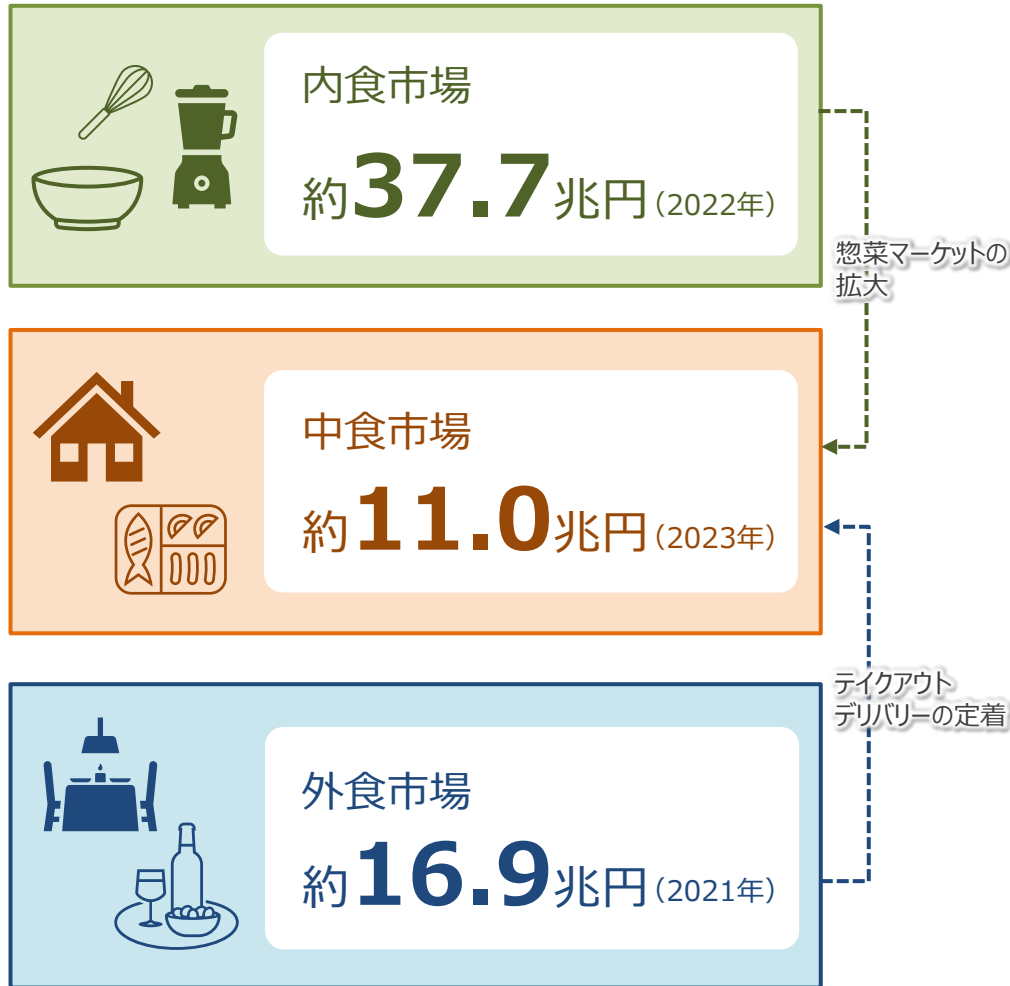
コンビニエンスストア

売上  客数 

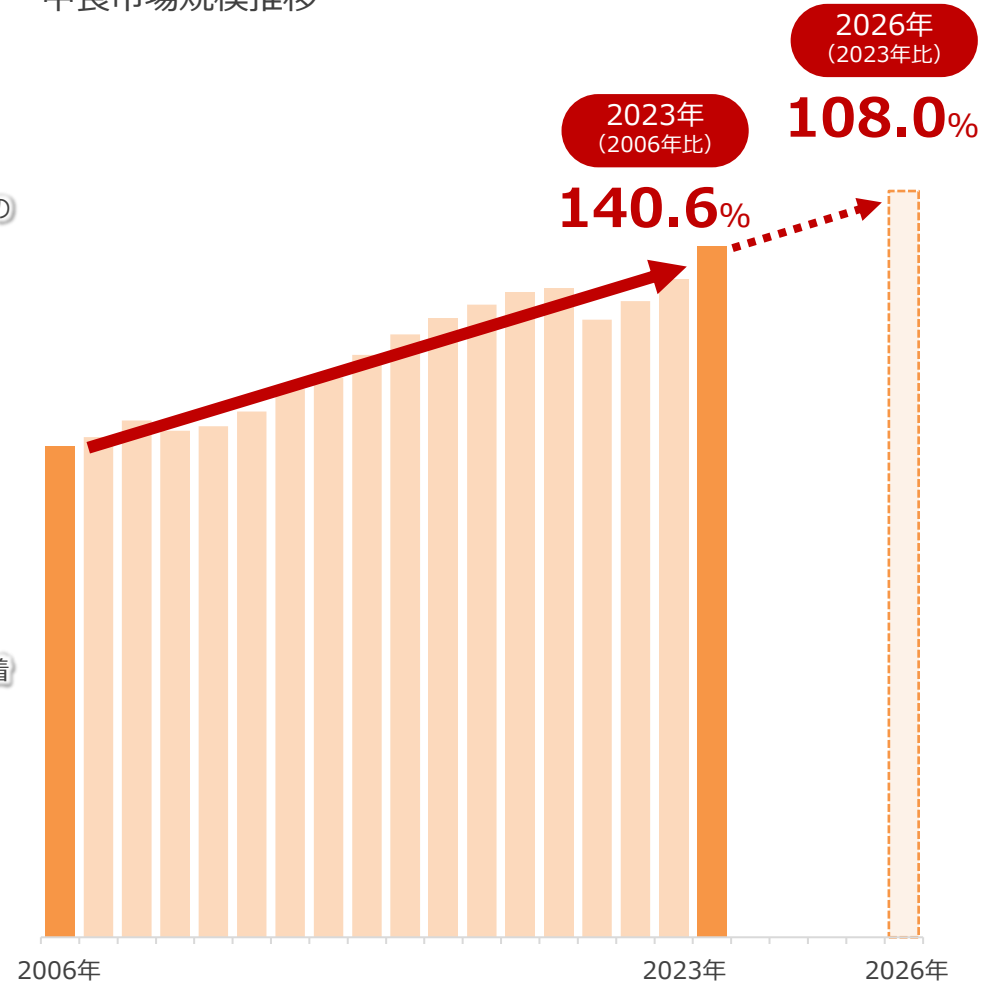


中食市場の拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2024年版惣菜白書」



中食市場規模推移



食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出

スーパーマーケット

+

コンビニエンスストア

+

食品メーカー（中食向け）

+

テイクアウト
デリバリー

冷凍食品

病院・介護施設

M&A

エコ・軽量化製品



マーケット変化の要因

人手不足

食品ロス

原料高騰

少子高齢化

業界再編

環境意識



(億円)

エフピコグループ売上高

蓋付トレイ



オリジナル製品



エコトレイ



カラートレイ



白トレイ



1970

1980

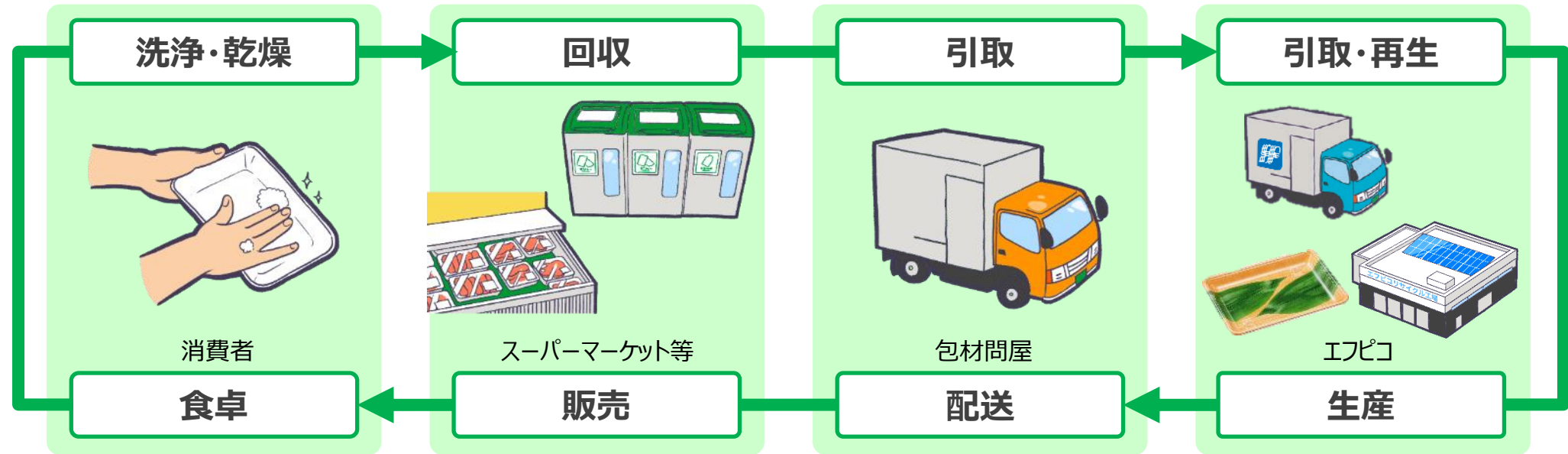
1990

2000

2010

2020

エフピコ方式のリサイクル



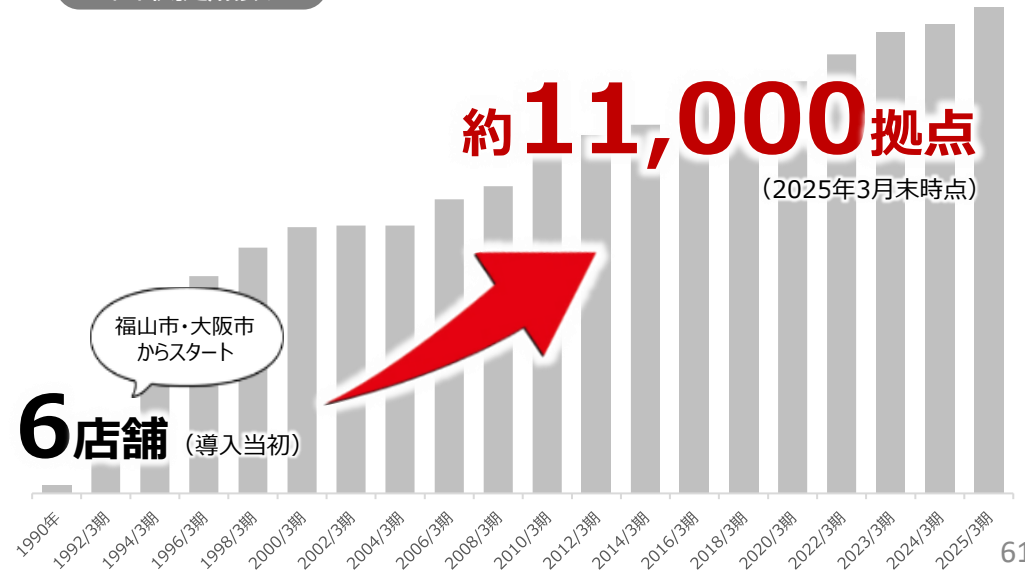
歴史

容器包装から
紙包装へ変更

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エフピコ方式のリサイクル開始**
- 1992年 「エコトレー」の販売開始**
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始**
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始**
- 2012年 「エコAPET」の販売開始**
- 2015年 パリ協定
- 2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



回収拠点数



プラスチック資源の回収

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
PSP : 4 g、透明容器 : 10 g、PETボトル : 25 g

回収重量

'21/3実績

'22/3実績

'23/3実績

'24/3実績

'25/3実績

容器

(PSP・透明容器)



回収ルート
スーパーマーケット店頭
指定法人ルート

10,000トン
(約21億枚)

10,300トン
(約22億枚)

10,400トン
(約22億枚)

10,500トン
(約22億枚)

11,000トン
(約23億枚)

PETボトル



回収ルート
指定法人ルート
スーパーマーケット店頭
事業系ルート

75,000トン
(約30億本)

73,000トン
(約29億本)

81,000トン
(約32億本)

80,000トン
(約32億本)

79,000トン
(約32億本)

* 一部プラント修繕

回収重量合計

85,000トン

83,300トン

91,400トン

90,500トン

90,000トン

製品販売重量に対する
使用済み製品の回収重量比率

42%

40%

44%

44%

42%

全国を網羅する生産・物流拠点

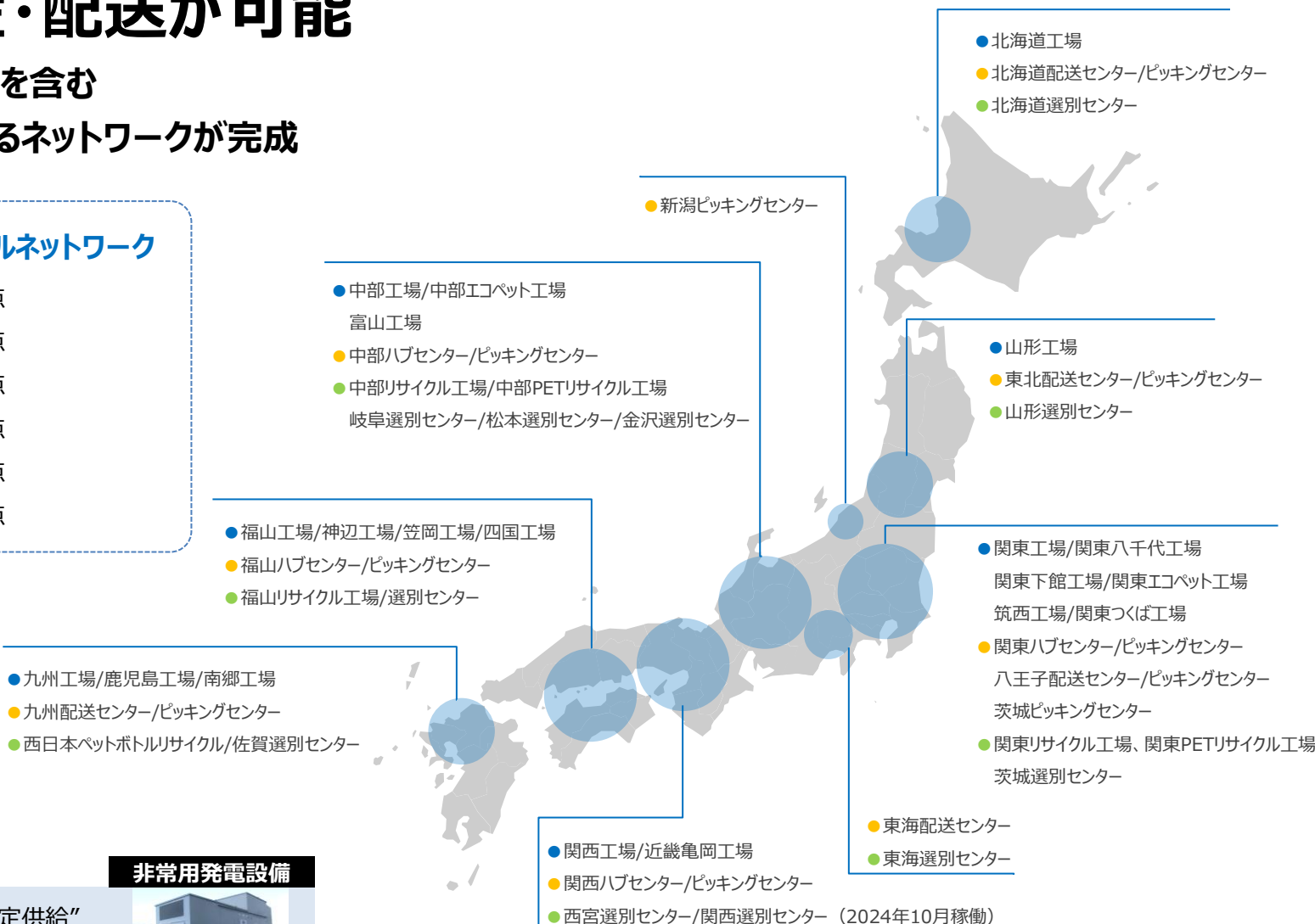
各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

● 生産工場	20拠点
● 配送・ハブセンター	9拠点
● ピッキングセンター	10拠点
● リサイクル工場（PSP）	3拠点
● PETリサイクル工場	3拠点
● 選別センター	11拠点



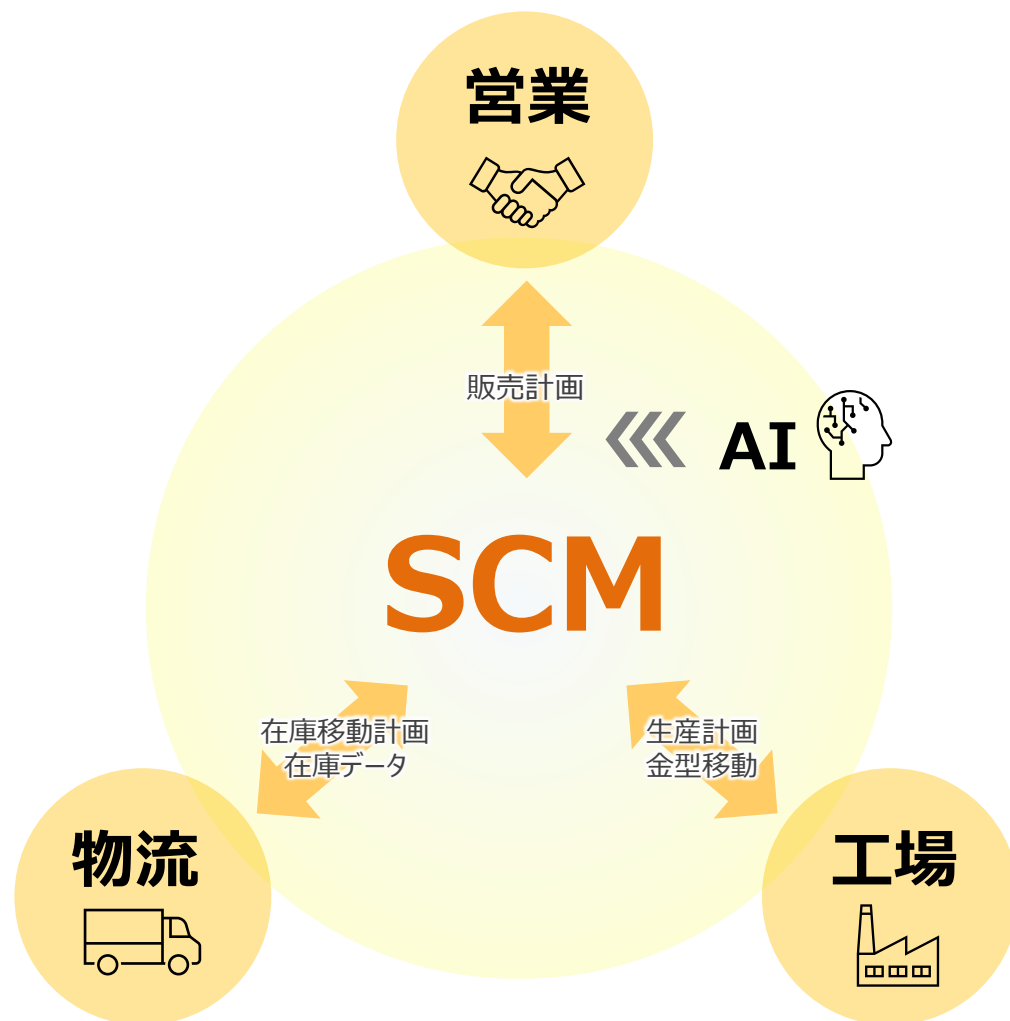
非常用発電設備



B C P(事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保

サプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）

安全・安心な食生活を支える**安定供給**

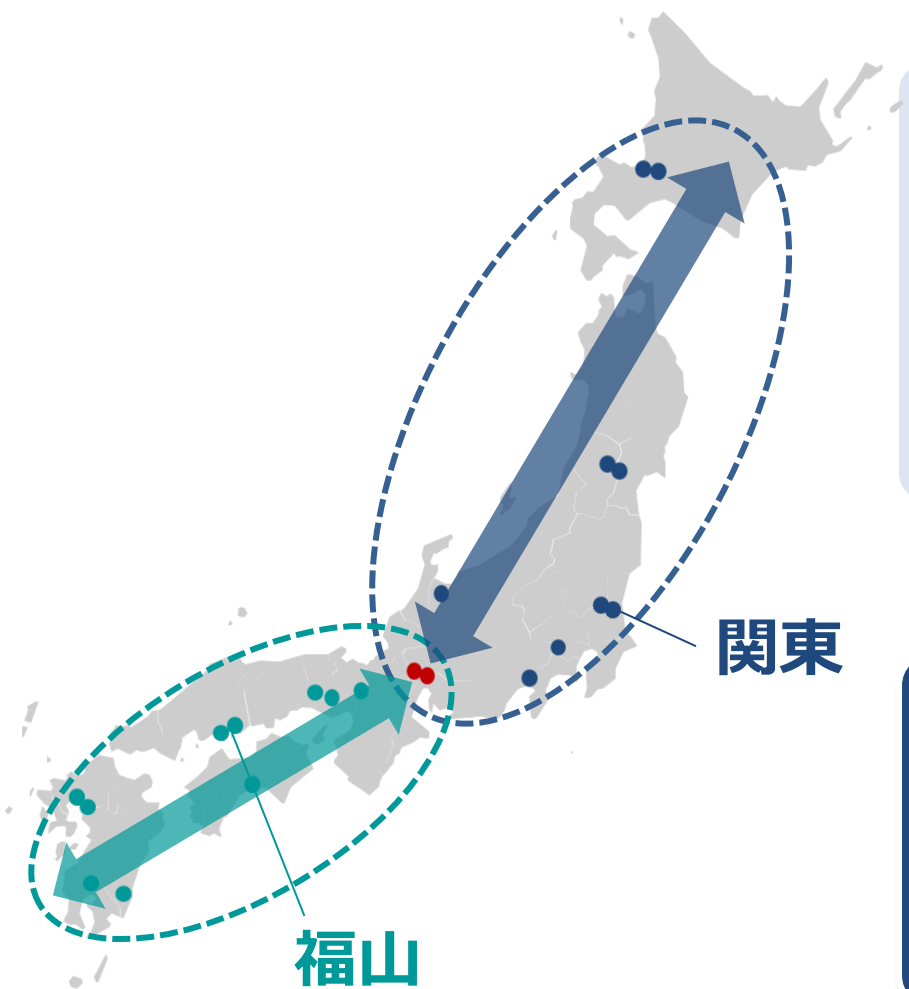


- ✓ 約**12,000**アイテムの品揃え
- ✓ 適切な在庫水準を維持
- ✓ AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

関東・福山間の製品移動の最少化

サプライチェーン・マネジメントシステム

SCM × 全国をカバーする拠点網



取り組み①

需要に応じた現地生産をさらに推進

取り組み②

東西でエリアを分割して横持の最少化

関東・福山間の長距離輸送 

2024年4月～2025年3月
削減実績（前年同期比）

53.5%

人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



単純なモノの移動の省人化

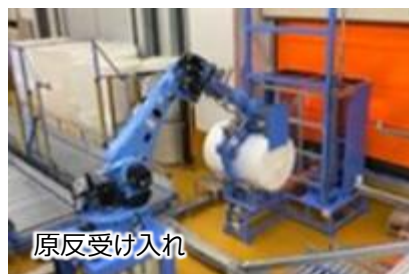
重労働の軽作業化



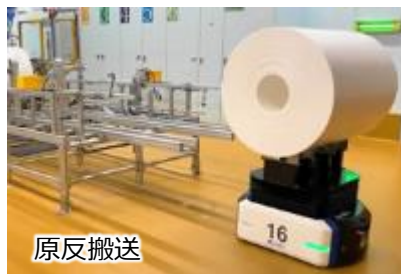
頻度の高い作業の省人化



生産部門



原反受け入れ



原反搬送



原反つなぎ



梱包

物流部門



無人搬送車 (AGV)



ソーター



無人フォークリフト (AGF)

- AGV : 33台 ('25/3期)
- AGF : 6台 ('25/3期)
- ソーター : 5センターに導入

自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善

2019年3月期 退職金制度の拡充

2021年3月期 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期 製造・物流会社における現場社員を対象に

- ・給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ・初任給の引き上げ
- ・休日日数の増加

製造・物流会社における離職者数

前年比 63名減少

（自己都合のみ、2023/4～2024/3 実績）

2025年3月期 給与水準平均5%の改定

2026年3月期 給与水準平均6%の改定

外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE (英)

(2023年6月) (2024年6月)

3.8 → 4.0

MSCI (米)

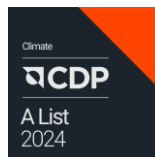
(2023年3月) (2024年5月)

BB → BB

CDP (英)

(2024年2月) (2025年2月)

A → A



SUSTAINALYTICS (蘭)

(2023年12月) (2024年11月)

14.4 → 17.8
(Low Risk) (Low Risk)

※低い程良い

ESG指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index (GenDi J)

その他外部機関からの評価・活動

外部評価



環境関連参画団体



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

エフピコグループの基幹業務で活躍

障がい者雇用人数

401名

障がい者雇用率換算数

676名

障がい者雇用率

12.6%

(2025年3月時点)



製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



選別

使用済み食品トレー
透明容器

お客様の障がい者雇用をサポート

エフピコをサポートで
お取引様を中心に

55事業所 770名

の雇用が生まれました
(2025年3月時点)



精肉の下味付け



農産品の加工



青果の検品・計量



惣菜加工



コンテナ洗浄



タオルの洗濯



海産物選別



古紙減容

● 障がい者雇用に関する評価

▶ 2024年9月（東洋経済新報社）「障害者雇用率ランキング」 3位

▶ 2022年6月（厚労省）「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定（もにす認定）」 ※エフピコダックス(株)

▶ 2019年1月（厚労省）「H30年度 障害者活躍企業」認証 ※エフピコダックス(株)



施設見学のご案内

【随時受付】経営企画室：03-5325-7756

最新鋭の **生産** **物流** **リサイクル** をご覧いただけます

